

僕専用亜美外伝
ぼくせんようあみ

木星蹂躪Ⅲ

もくせいじゅうりん

—オフパコの洗礼—



おとこじゅく
ななしのいち

成人向



今日は年二回東京ビ○グサイトで行われる

コミ○クマーケット通称コ○ケに遊びにきた!



「なんだよここは!?!」



「まわりはオタクだらけじゃないか!」

「まじと早くしろよー!」





「見ればわかるだろ！」

「コミケだよ！」

「コミケって何だよ!?!」

「私はオタクが嫌いなんだよ！」



「コミケ!?!」

「こんな所まできて
何をするんだよ!」

この長身の美少女は木野まこと!

身長は僕よりも高く力も強い！
そして喧嘩は無敗で
そこいらの不良男子が束になっても
敵わない強さを誇っている！





そしてその正体はセーラー戦士の一人で
木星を守護に持つ雷と保護の戦士！

セーラージュピターだ！

そんな無敵の美少女

木野まことは

...



今は僕専用の
.....

肉便器だ！





あれは今年の春に遡る……

僕はクラスメイトで憧れ続けていた

水野亜美のストーカーをし

卑劣な盗撮行為で弱みを握った!

そしてその噂を聞きつけて現れたのが

この木野まことだ!

しかし逆に僕は亜美の恥ずかしい画像を見せ

逆らうなら亜美の画像をばらまくぞと

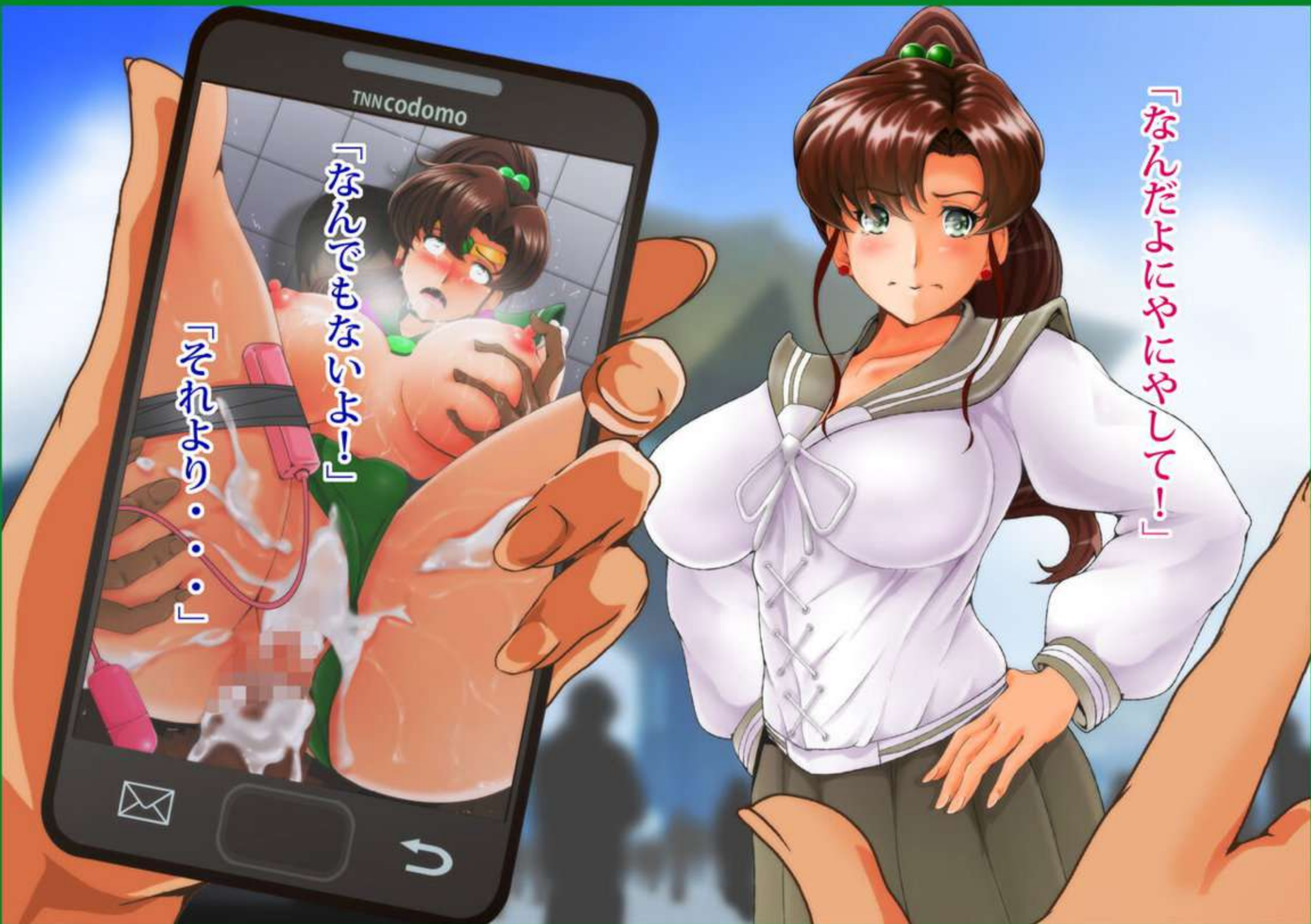
木野まことを脅した……

親友思いの木野は僕に従うしかなかった!

「なんだよにやにやしてー!」

「なんでもないよー!」

「それより……」



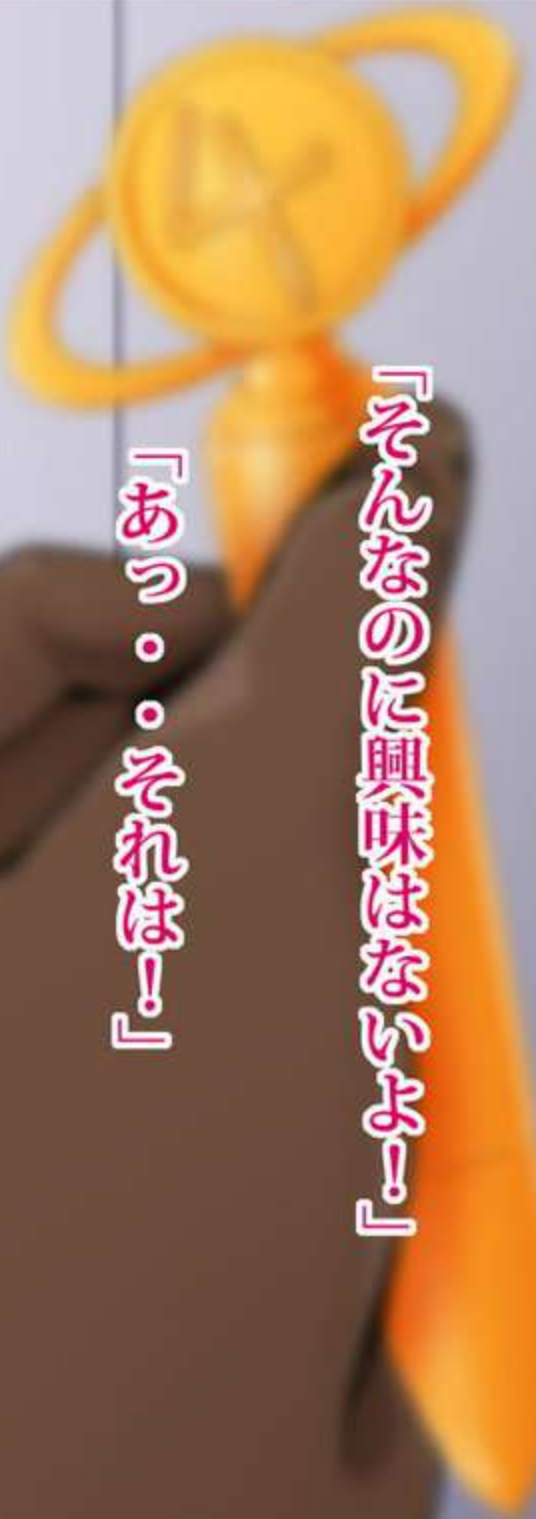
「コミケっていったら
コスプレだる！」

「コスプレ!?!」

「そんなのに興味はないよ！」

「あっ・・・それは！」

「私の変身ペン！」





「いいから変身してみてよ!」

「どうせ僕には逆らえないだろ!」

「くっ……」

「わかってるよ!」



「ジュピターパワーメイクアップ!」

A close-up illustration of Sailor Jupiter, a character from the Sailor Moon series. She has long, wavy brown hair and is wearing her signature green and white sailor-style uniform with a large pink bow at the collar. She has a green gem on her forehead and is wearing white gloves. She is pointing her right index finger directly at the viewer with a determined expression.

「雷と保護の戦士！」

「セーラージュピター！」

「しびれるくらいに後悔させ……」



「おおっっっっっ!!」

「なんだこれ!?!」

「あんな変身ペンに
何か細工したね!?!」

「どうだい気に入って
もらえたかな!?!」

「〜♡♡♡♡♡」

「いいセーラーズツだろ!」



「なんてことを！」

「ほとんど

下着じゃないか！」

「ちよつとデータを
いじらせてもらったよ！」

「これくらいじゃないと

ヲタク達の人気は得られないよ！」



「おっとまだそれじゃ
準備が不十分だ！」

「ほら、まこと……これ！」

「そ……それは！」

「ピンクローター！」



「ば・・・バカ・・・何を・・・!?!?」

「まことピンクローター好きだろ!」

↑↑

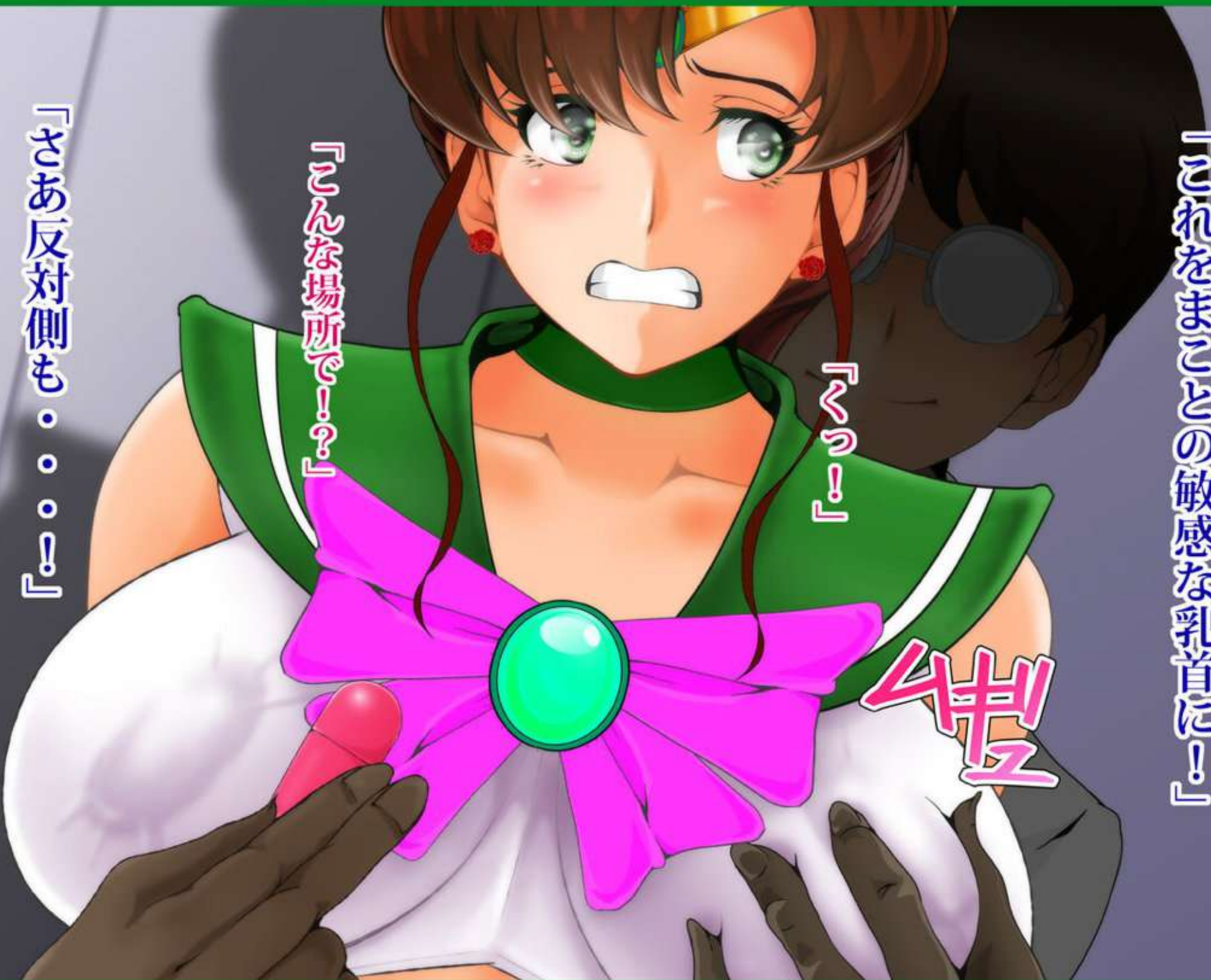
「これをまことの敏感な乳首に！」

「んー！」

んんん

「こんな場所で!?!」

「さあ反対側も……!?!」



「そっしとこらちぢも……！」

「ああ……ばかつ！」

そんなところに……！」

「あぁっっ……あぁ……！」

ツツ

ツツ

「^{なか}腔内になんか……^い挿入れるんじゃ……！」

「ピンクローター装着完了！」

「さあ次はこのメガネをかけて！」

「ええええ！」

「さすがに身バレはまずいからね！」



「おおおお

いいじゃないか!」

「コスプレイヤー

人気間違いなしだよ!」



「これをつける!」

「なんだよそれ!?!」

「インカムだ!」

「これで指示するから
いう通りに行動しろよ!」





「さあごっちだー!」

「なんだここは!?!」

「カメラを持ったオタク達が・・・」

「コスプレ広場だよ!」

「コスプレ広場!?!」

「さあ行ってこい!」

「この格好で・・・!?!」

「こんな姿で・・・
ヲタク達の中を・・・」

「なあに簡単なことさー!」

「向こうの端まで行って
こっちにもどってきてくるだけだ!」



「わかったよ……!!」

「行けばいいんだらう!」

「行って帰ってきてくれば
いいんだら!?!」

「そうだ……」

「でもそれだけで済むとは
限らないけどね!」



「おおおおセーラー戦士!?!」

「しかもなりきりブラセット!」

「!?!」

「すみません一枚いいですか!?!」

「ごうちもお願いします!」

「ごうちも!」



「セーラージュピターだ！」

「完成度激高ッ！」

「しかも超美人！」

「何でレイヤーさん!?!」

「目線ください！」

「ごっちもお願いします！」

「ごっちもー！」

「ごっちにもー！」

カネ

カネ

カネ

カネ



「な・・・なんなんだ!?!」

「あんた達は!?!」

カチ

カチ

カチ

カチ

「何勝手に写真撮ってるんだよ!」

カチ



「カメコの皆さんだよ！」

「要望通りポーズをとってあげな！」

「ポーズってなんだよ!?!」

「ほら・・・セーラー戦士の

決めポーズとかあるでしょ!」





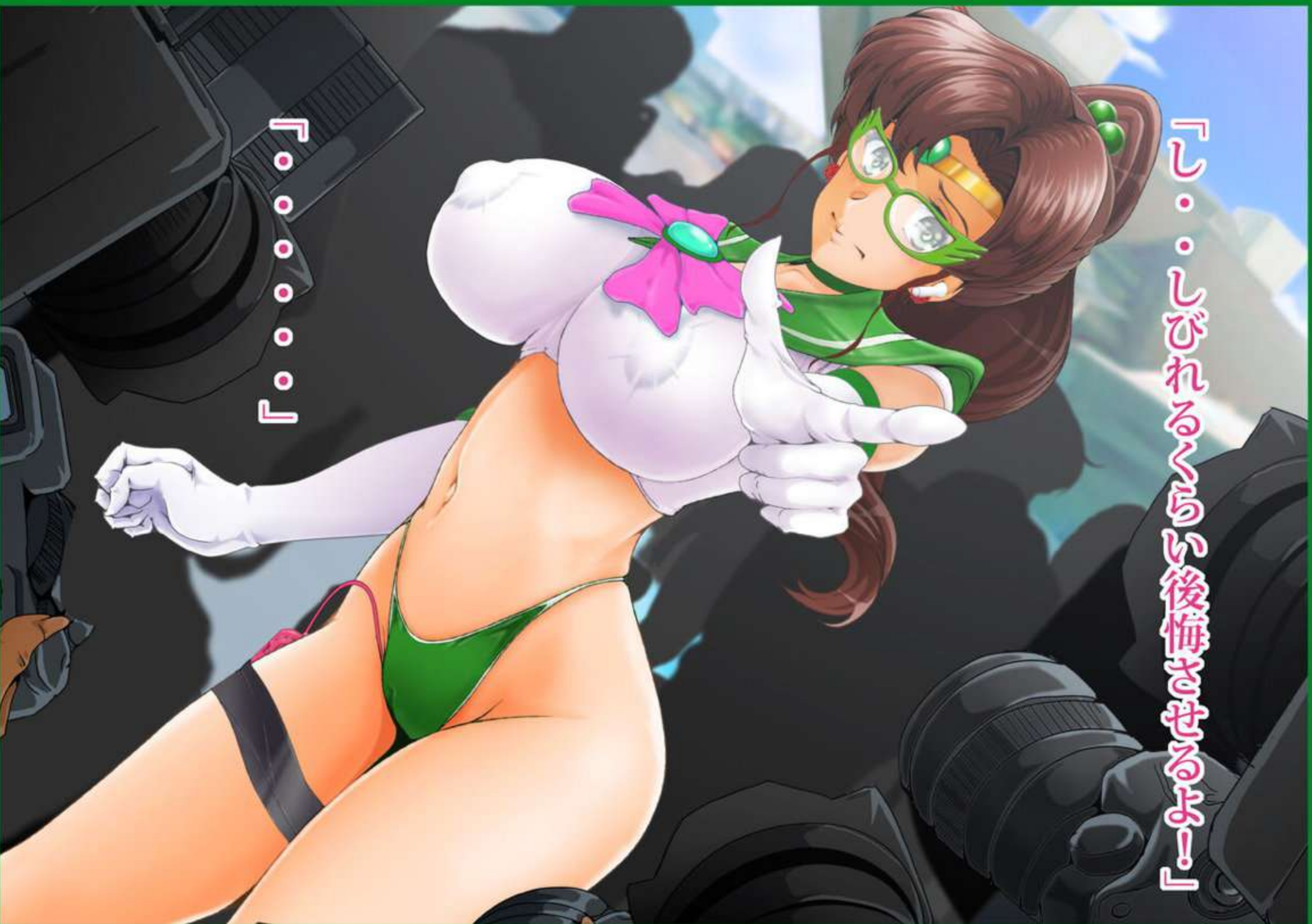
「わかったよ・・・こうか!?!」

「木星を守護に持つ・・・」

「雷と保護の戦士セーラージュピター!」

「しびれるくらい後悔させるよ！」

「.....」



「おおおおおつ！」

クオリティー高えええつ！」

「かっこかわいい！」

カク

「セクシーッ！」

「セーラージュピター

なりきりブラセット！」

カク

カク

カク

カク

「最高っっ！」



「えっ!」

「ごうちもー!」

カク

「ごうちもー!」

カク

カク

「目線ください!」

カク

カク

「ごうちもお願いします!」



「いっちなお願いしませうー!」

「いっちなませうー!」

「ええつつつ!!!」

「いっちなも宜しくー!」

「いっちなも向らしてー!」

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ



「ごっちもー!」

カク

「ごっちお願いしますー!」

カク

カク

「ごっちもー!」

カク

「あぁっっっ」

「ごっちもー!」

カク

「なんなんだこれ!?!」

カク

「ごっちにも視線を!」

カク

「ごっちもー!」

カク

「ごっちもー!」



「あああああつ……」

「もう勘弁してくれよおおつ！」

カクカク

カクカク

カクカク

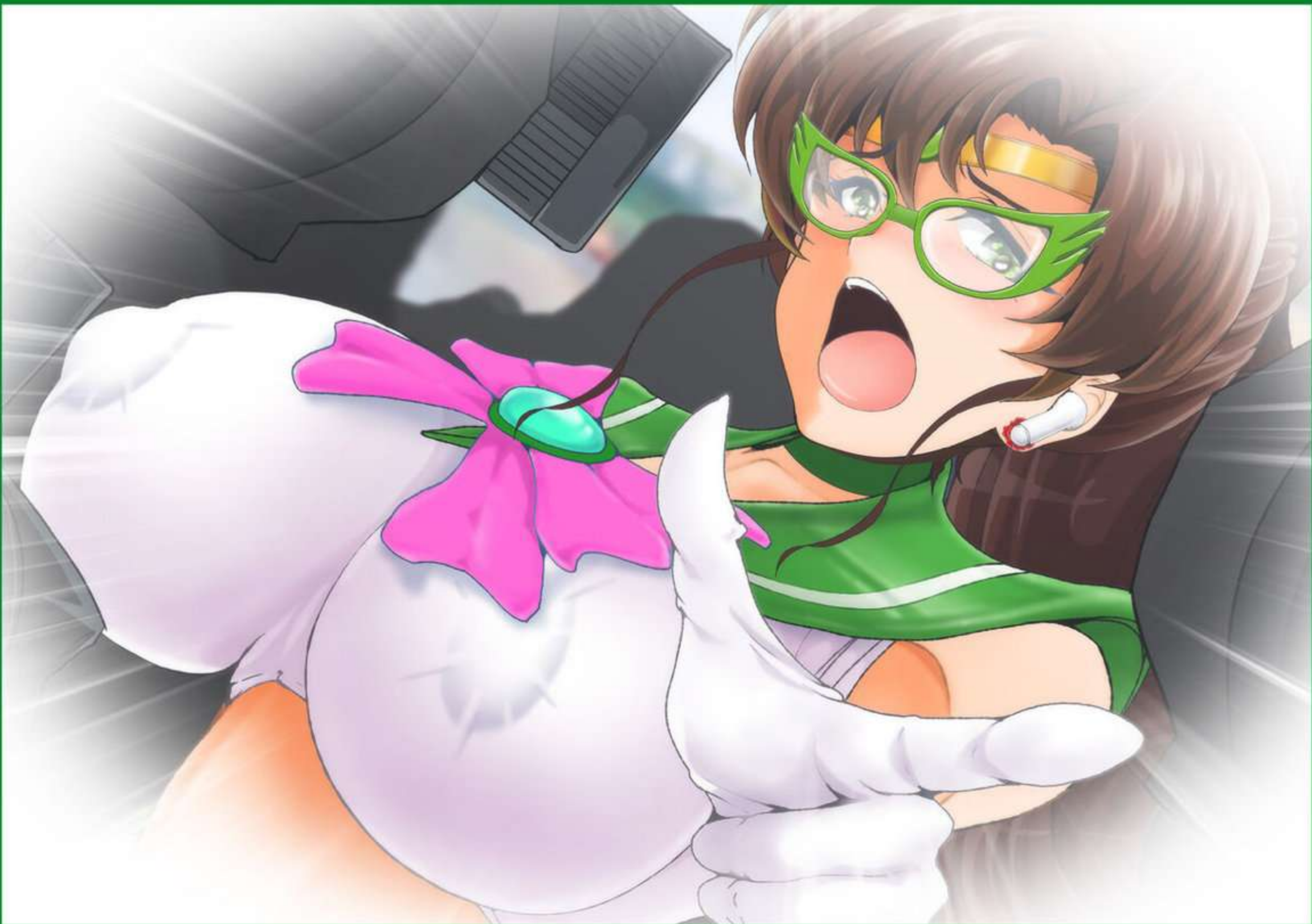
カクカク

カクカク

カクカク

カクカク





カキ

カキ

「全く……」

カキ

カキ

カキ

「これじゃ向こうの端まで
行くどころか……」

カキ

「一歩も動けないよ!」

カキ

カキ



「おいみんな！」

後ろみてみるよ！」

「〜?」

「この娘のパンツ！」

Tバックだぜ！」

「ほんどお尻丸出し！」



「おおおおおつ本当だ！」

「ケツ丸出し！」

「しかもスゲーお尻！」

「ムチムチじゃん！」

「肉感がスゲーツ！」

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク



「ああああっつっ！」

「なにお尻ばっかり撮ってるんだよ！」

「そんなところばっか撮るんじゃないよ！」

「このヲタクども……っ！」

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ



「どうした!?!」

まごどー!

「さっきから

「歩も動いてないぞ!」

「くっ!」

「早く行って帰ってこないと・・・」

「お前の身体に仕込んだ

ピンクローターを作動させるぞ!」

「こんな場所で冗談じゃないよ!」

「あきらめて

彼らの好きなように……」

「写真を撮らせてやるんだな！」

「満足な写真が撮れば……」

「次のレイヤーさん求めて
いなくなるだろうから！」

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

「おおおおおつ！」

「こんなお尻に埋もれたいっ！」

「いいケツ！」

「たまんねえええつ！」

カキ

「俺にも撮らせる！」

カキ

「前代われ！」

カキ

「順番だつ！」

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ



「おおっまこと！
大人気だな！」

「どうだ大勢のオタクさん達に
視姦される気分は!？」

「くっっ！」

「冗談じゃないよ全く！」



「この娘胸も大きいぞ!」

「ホントかなりの巨乳!」

ムチムチ

ムチムチ

「ポーズのリクエストいいですか!？」

「ちよつと胸を寄せて・・・」

「前かがみでお願いします!」



「ほらまいと・・・」

「リクエストに応じてやれよ！」

「く・・・」

「胸を寄せて前かがみだつてさ！」



「わ・・・わかったよ！」

「ま・・・ごらんか!？」

ゴリゴリ

ゴリゴリ



「おおおおつつでけえええつ！」

「寄せるとデカさが一層引き立つ！」

「さささー」

「サービス満点！」

「僕君のファンになるよ！」

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

ムクムク

ムクムク

「もっと寄せて！」

「……うんうん……」

「胸の谷間を集中的に……！」

「おおおおいねっっ！」

「この胸で挟んでももらいてえっっ！」

カキ

カキ

カキ

ムムム

ムムム

カキ

ムムム

カキ

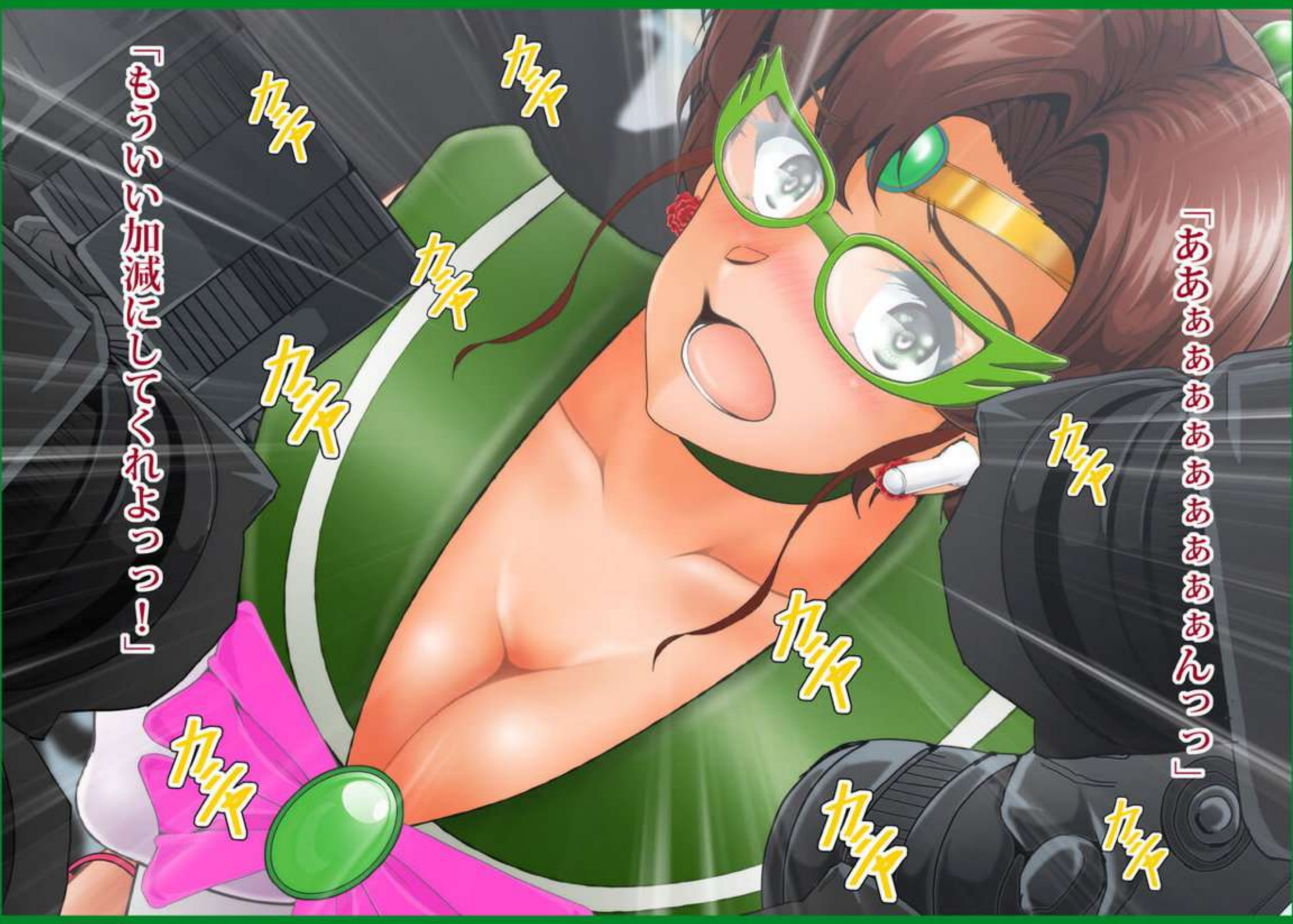
ムムム

カキ



「ああああああああああんっっ」

「もういい加減にしてくれよっっ！」





「ようやく収まったのか・・・」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「全くどれだけ

撮りつづけるんだよ!?!」

ハアハア
ハアハア

「でも・・・!」

「これでよろやく・・・」



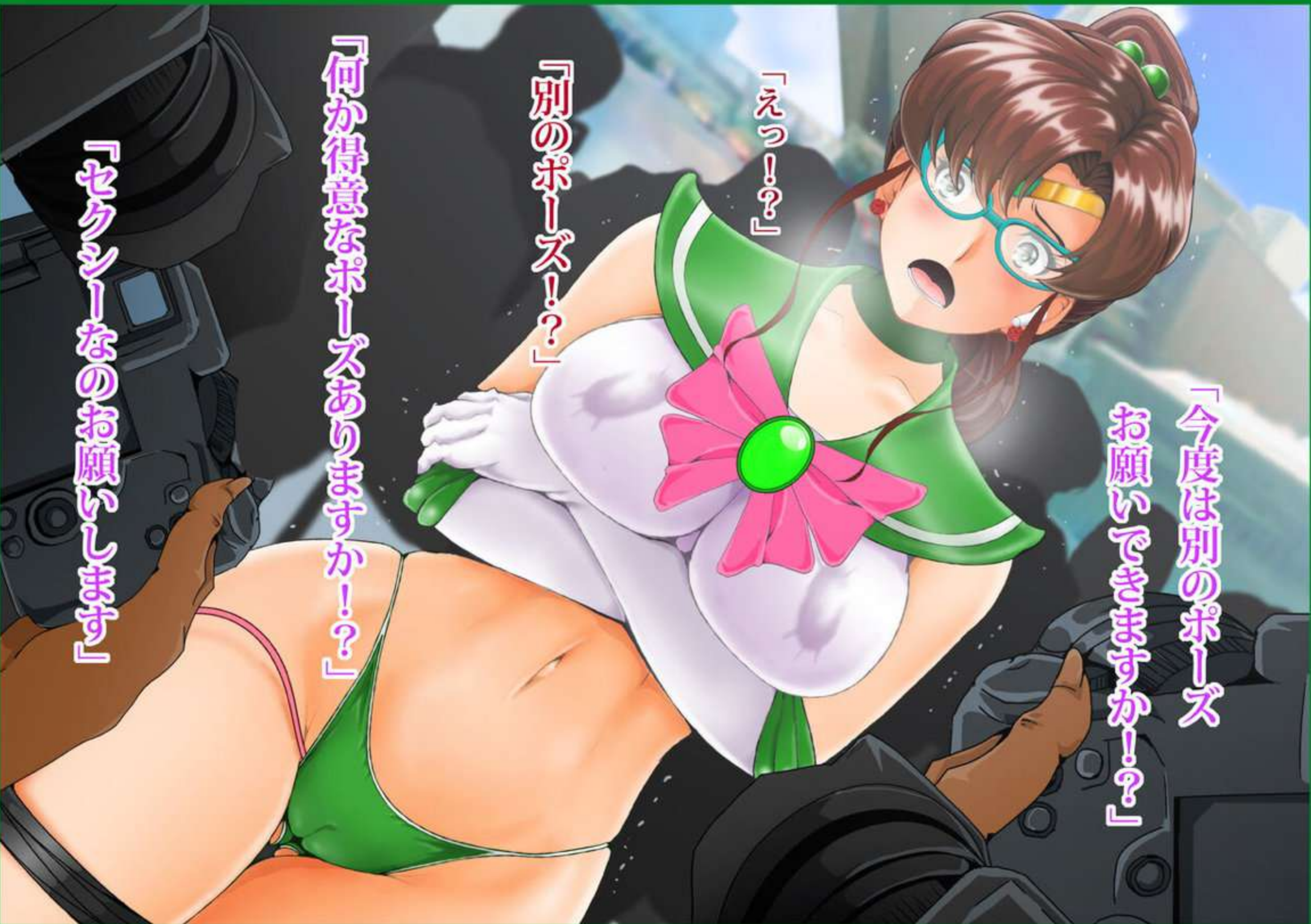
「今度は別のポーズ
お願いできますか!?!」

「えっ!?!」

「別のポーズ!?!」

「何か得意なポーズありますか!?!」

「セクシーなのをお願いします」



「ほらー!まことー!」

「ポーズのリクエストがきたぞー!」

「リクエスト!?!」

「何すりゃいいんだよ!?!」

「そうだお前アレできたよな!」

「Y字バランス!」



「Y字バランスだって!?!」

「バ・・・バカ言うなよ!」

「この恰好でか!?!」

「あれ!?!まこと!
出来ないの!?!」

「それなら今すぐ
ローターのスイッチを・・・」

「そ・・・それは!」

「わかったよ・・・」

「やればいいんだろ!」



「ほらー！おニューー！」

「早く……」

「くっっ……」

「見ていてください……」

「Y字バランスをやります……」





「おおおおお……」

「おおっー」

「すげええつつ……」

「おおっっ」

「Y字バランス……!?!」

「いや……Y字を通り越して……」

「I字バランスだ!」

「おおおおおおおつ！」

「シャツターチャンス！」

カキカキ
「いいぞっ！」

カキカキ
「すげっっっ！」

カキカキ
「こりやすげええっ！」

カキカキ

カキカキ

カキカキ



「わんわんー!」

「わんわんわんわんー!」

「なんだこいつら・・・」

「私の下半身ばっかり!」

「集中的にレンズを向けて!」

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ



「おいよく見てみるよ！」

「この娘の股間……」

カク

「何か仕込まれてるぞ！」

「ホントだ！」

カク

「丁度オマ○コ○の辺り……」

カク

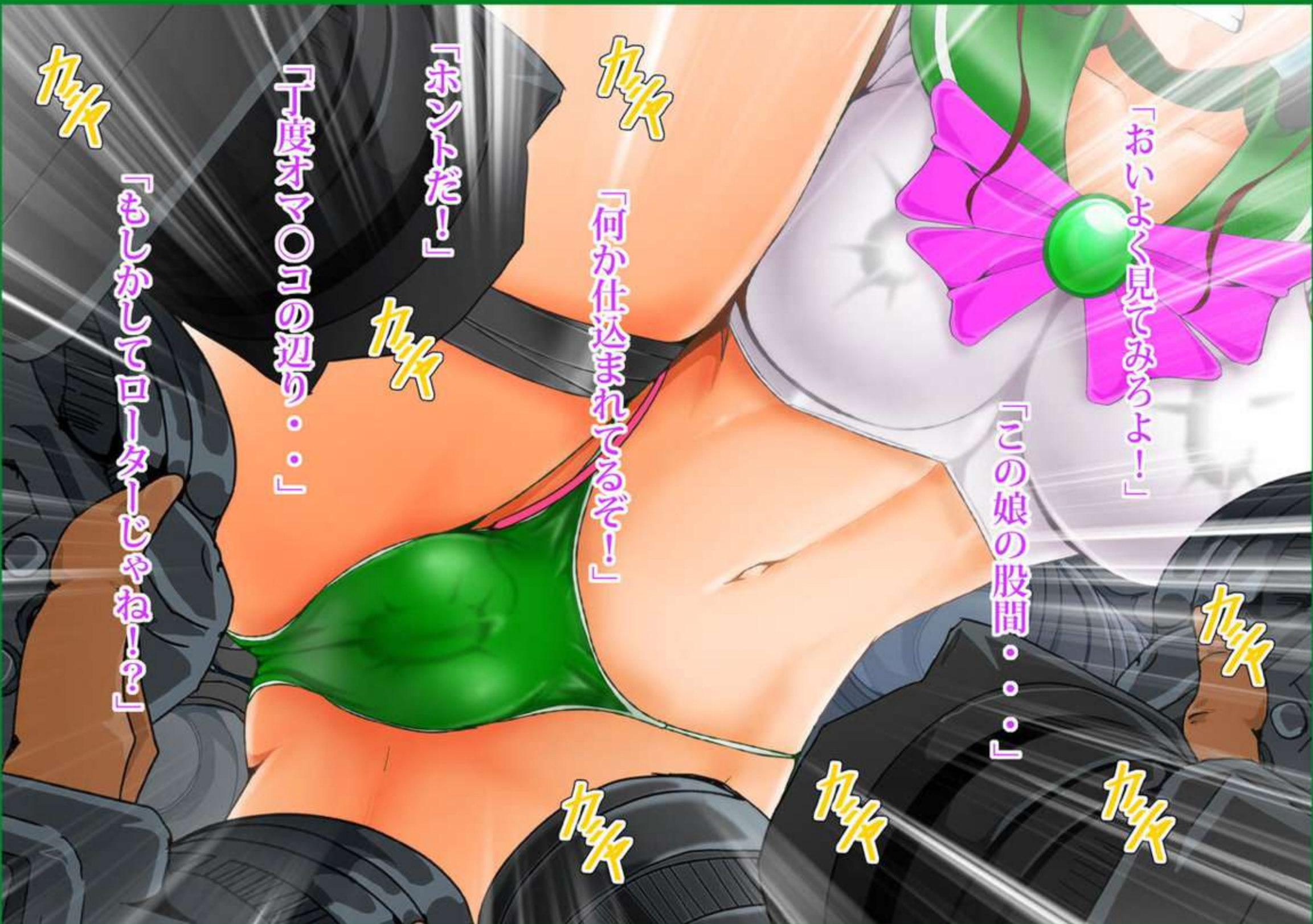
「もしかしてローターじゃね!?!」

カク

カク

カク

カク



「~~~~~」

カク

「この変態ども……」

カク

カク

カク

カク

「好き放題撮りやがって……」

「い……いつまで続けるんだよ!?!」

カク

カク

「も……もう十分だる!」



「そのままごつちに
目線ください!」

「あつごつちも!」

「ごつちもお願いします!」

「ごつちにもお願いできますか!?!」

カク

カク

カク

カク

カク

カク



「ごっちゃんもー!」

カキ

カキ

「ごっちゃんもー!」

カキ

「今度ごっちゃんにー!」

カキ

「ごっちゃんもお願いしませぬー!」

カキ

「ごっちゃんもー!」

カキ

「ごっちゃんもー!」

「ごっちゃんもー!」

「ごっちゃんもー!」

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ



「ほら見てみる!まこと!」

「大人気じゃないか!」

「これはもっとみんなの期待に
応えてあげたいとな・・・」

「さて今度は何してもらおうかな・・・!?」



「相変わらずまことは気が強いな！」

「でもいいのかい……!?」

「今僕にそんな口をきいて……」

「そんな君には少しお仕置きが必要だね！」

「お仕置きつって何する気だい!?!」

「はっ……!?!」

「まさか……!?!」

「どげんどう……そうだ!」

ホク

ホク





「二分・・・この状態でか!?!」

「そうだ二分だ!」

「二分耐えきるか・・・」

「それとも伝説のセーラー戦士が・・・」

「このオタク達の前で醜態を晒すか!」

「これは見ものだな!」

「ぐっぐっ!」

「この私を・・・」

「セーラージュピターをみくびるんじゃないよ!」

「こんな仕打ち・・・!」

「何分でも耐えてみせるよ!」



「おおおおおつ……」

「この娘すごいな！」

カク

「もう結構な時間

この態勢をキープしているぞー！」

カク

「体操選手かな!？」

カク

「凄い身体能力！」

カク

カク

カク

カク

カク



「それじゃパンツのアレも!?!」

「パンツからコードが伸びて・・・」

「太ももにコントローラーらしきものが
巻きつけられている!」

ズズズズズズズズズズ

「そうだ間違いない!」

ズズズズズズズズズズ

「この娘の身体にローターが仕込まれているんだ!」

「それじゃこの娘は・・・」

カク

カク

「乳首とアソコに仕込まれた
ローターに耐えながら」

「この姿勢を維持してるのか!」

ズズズズズズズズ

「それにあの振動に耐える顔!」

カク

カク

「こんなシチュエーションまたとないぞ!」

カク

カク

カク

カク



「おおおおおおおつ」

「撮るぞー!」

「俺もっ!」

「くぅぅぅぅぅー!」

「撮るぞー!」

「俺もっ!」

「撮るぞー!」

「僕もっ!」

「撮るぞおおおつ!」

「撮るぞー!」

「シヤッターきりまぐるぞっ!」

ズズズズズズ

カカカカカカ

カカ

カカ

カカ

カカ

カカ

カカ

カカ

カカ



「おおおお大人気じゃないか!」

「それによく耐えるな!」

「そろそろ30秒か……」

「バカにするんじゃないよ!」

「こ……これしきの刺激……」

「あと30秒耐えきってみせるよ!」

「言うねっ……」

「それじゃバイブの強度を……」

ズズズズズズズズ

ホフ

ホフ

ズズズズズズズズ

「少しあげてみようかな!」

「……」

「……」

「もちろんこっちもだ！」

ズズズズズズズズズズ

「……」

ズズズズズズズズズズ

「おっ・・・急にぐらつき始めたぞ！」

「プルプルしてきた！」

プルプル
プルプルプルプル

「それに全身に汗が・・・」

プルプル
プルプルプルプル

「そろそろ限界かな！」

プルプル
プルプルプルプル

プルプル
プルプルプルプル



「そう言う割には

膝がわらっているけどな！」

「本当はもう限界なんじゃないのかな！」

「あと20秒・・・耐えられるかな!？」



「この娘の汗尋常じゃないぞー！」

「おい見るよー！」

「この娘のアソコー！」

「汗で濡れてるのか!?!」

「いや・・・愛液だ!」

カクカ

ズズズズズズズズズズ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ
カクカ
カクカ
カクカ
カクカ
カクカ
カクカ

「愛液が染み出てるんだ!」

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

「おおおおおおお……」

「アソコのシミがどんどん拡がっていく！」



「ブラも汗で地肌が透けて……」

カクカ

「膝もさつきからガクガクして！」

「感じてるんだこの娘！」

「バイブで！」

「俺らに見られて！」

「アソコがグチヨグチヨになるくらい……」

「感じてやがるんだっつー！」

ズズズズズズズズズズ

カクカ
ズズズズズズズズズズ

ズズ

ズズ

ズズ

カクカ

ズズズズズズズズズズ

カクカ

カクカ

「落ちな……まごどー!」

「ぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ……」

「こ……こんな所で……」

「で……でもダメツ!」

「我慢できない……っ!」

「も……もう……ダメツ……」

ピン

ピン

ピン

ピン

ピン

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「おおおおお・・・」

「まさか!?!」

「あああああああああああああつっっ!」

「潮噴き!?!」

「昇天!?!」

「こんな場所で!?!」

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク



「とにかくシャツターチャンスだ！」

「撮れ！」

「撮るんだ！」

「撮れ！」

カクカ
「撮れ！」

「おおおおおおおつっ！」

カクカ

「シャツターを切りまくれええつっ！」

カクカ
カクカ

カクカ

カクカ
カクカ

カクカ

カクカ

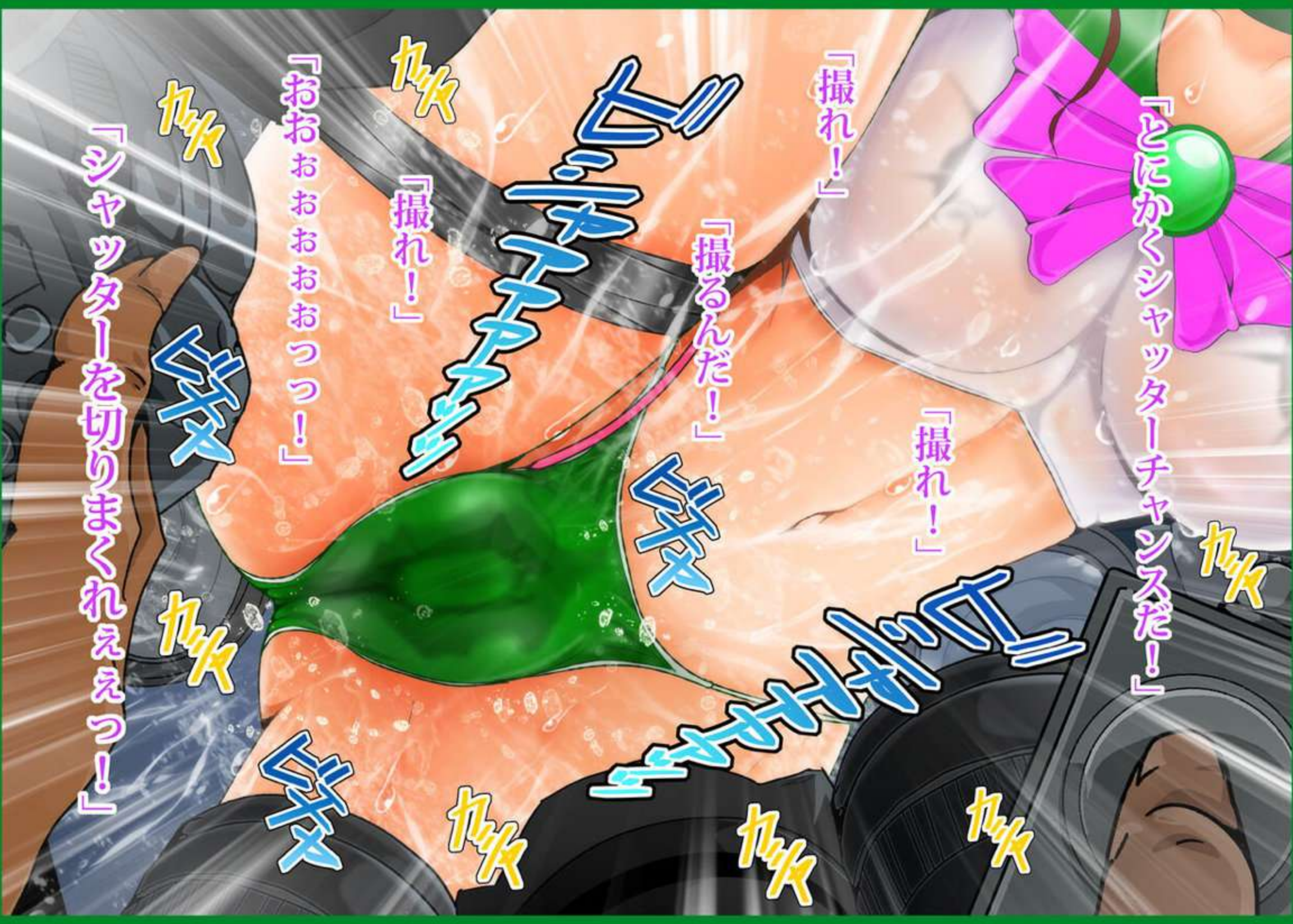
カクカ

カクカ

カクカ
カクカ
カクカ

カクカ

カクカ
カクカ
カクカ





「いまこの娘……いったよな!?!」

「すげえ……」

「あ……あ……」

「ああ……」

「今のリアルな潮噴きだる!?!」

「撮ったか!?!」

「ああ……撮ったぞ……」



「で……でも……撮りたらない！」

「もつと撮りたい！」

「お……俺も……」

「僕も……！」

「こんなエロいレイヤーさんいないよ！」

「もう一枚お願いできますか！」

「ごっちもお願いしますー！」

「ごっちもー！」

「ごっちもー！」

プル

プル

プル

プル

カク

カク

カク

カク

カク

ハイハイ

ハイハイ

ハイハイ

ハイハイ

ハイハイ

「まごど！よかったな！」

「みんなもっとお前のこと撮りたいってさー！」

「それじゃしかたないよな！」

「もつとサービスしてあげなくちゃー！」



「サービスって・・・なんだよ!?!」

「これ以上何するつもりだよ!?!」

「僕は何もしないさ・・・」

「悪さするのは君の身体に仕込まれた・・・」

「ピンクローター達さ!」



「や……やめてくれ……」

「これ以上の屈辱……!」

ホク

「そ……それに……」

「も……もう身体がもたないよ!」



「アソコに手を当てて・・・」

「今度は悶えはじめたぞ！」

「あっっ」

「ああ・・・んっ！」

「ああ・・・っっ」

「ああっっ・・・」

ズズズズズズズズズズ

「これは・・・オナニーシヨールだ！」

「セーラー戦士のオナニーシヨールだ！」



「おおおおおこつちもすげえぞー！」

「後ろも見てみるよー！」

「!?!」

「ん・・・なになにどうした!？」

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

ピン

ピン

ピン

ピン

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「お尻もアソコもビシヨビシヨだぜ！」

「おおお本当だ！」

「愛液が溢れ出てる！」

「濡れ濡れじゃないか！」

「ス・・・スゲエツツ！」

ピン

ハアハア
ハアハア

ピン

ピン

ハアハア
ハアハア

ピン

ピキキ

ピキキ

ピキキ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「溢れ出た愛液が太ももを伝って・・・」

「床まで流れおちてる・・・」

「そんなに感じてるんだ！」

「この娘感じてるんだ！」

「俺らに見られて感じてるんだ！」



カキ

「おおおおお！」

カキ

カキ

「こつちからのポーズも絶景だぜ！」

「ああ・・・やめろ・・・」

「いいねポーズそのままで！」

「一枚撮るよ！」

「ああっ俺も・・・！」

「俺もっ！」

ピン

ピン

ピン

ピキ

ピキ

ピキ

カキ

カキ



「と……撮るな……」

「撮らないでくれ！」

「たのむ……」

「これ以上こんな姿……」

カキ

カキ

カキ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ピン

ピン

ピン

ピキ

ピキ

カキ

カキ



「すげえええええつつつ！」

「パンツが食い込んでケツが丸見えだ！」

「こんなに濡れた娘……」

エロ動画でしかみたことないよ！」

「止め処なく愛液がシミ出てくる！」

「おおおおおおおおお……！」

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

ピタ

ズキョ

ズキョ

カクカ

ピタ

ハイハイ

ハイハイ

ハイハイ

ハイハイ

ピン

ピン

ピン

「やめろって言うてるのに……」

「あきらめるんだな！」

「ゾーンに入ったカメコさんを
止めることはできないよ！」

「それよりもっとみんなを
楽しませてあげようじゃないか！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア





カクカ

カクカ

カクカ

ビチャ

カクカ

カクカ

ビチャ

ジ

カクカ

「ああ・・ダメツ！」

「ダメツ！」

ピン

カクカ

ビチャ

ジ

ジ

「あああああああつ！」

「ダメツ！」

「ダメツ！」

ピン

カクカ

「もうダメツ！」

カクカ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「おおおおお……いつちまったんだ！」

「またいつちまった！」

「あ……あ……」

「ああ……」

「この娘いつちやったんだ！」

「僕らの前で……」

「潮噴いていつちまったんだ！」

ズ
ズ

ズ
ズ

ビチャ

ビチャ

ビチャ

ズ
ズ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「どうだまことー!」

「大勢の前で昇天するのは……」

「んんんん……」

「さぞかし快感だっただろう!」

「せっかくだ見せてやれよ!」

「脚を払げて見せてやれよ!」

カクカ

カクカ

カクカ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「言っ通りだしならど……」

ハアハア
ハアハア

「わ……わかってるよ……!」

ハアハア
ハアハア

「おおお今度は……」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「何が始まるんだ……!?!」



「そろりだー!まじでー!」

「おおっっ」

「おお・・・」

「んん・・・」

「おおっっ」

「おおっっ!」

「そして手を後ろにまわして・・・」

「アソコがよく見えるようにするんだ!」

「おおっっ」

「おお・・・」



「手をどけてよく見えるようにするんだ!」

「〜っ〜っ〜」

「おおおっ!」

「こうするとよくわかる!」

「濡れてる・・・」

「濡れてるというレベルじゃないぞ!」

「愛液が滴りおちている!」

ズグウ

ズグウ

ホタッ

ホタッ

「つまり・・・撮っていらってことかー！」

「おおおおお・・・」

「なんてサービス精神旺盛なんだ！」

「撮るぞー！」

「撮るぞー！」

「撮るぞっつっ！」

「撮りまくるぞおおおおっ！」

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

「おあまい♪ー!」

「場も盛り上がってきた!」

「そろそろファイナルだ!」

「もう一度みんなの前で……」

「イっててもらおうか!」



「堕ちなな！まごどー！」

「こ……これ以上何を……!?!」

ゴキ

ゴキ



「ああ……ああああああ……」

「おおお！？」

「また……ローターが！」

クククククク

「パイプが振動し始めた！？」

「ああああああ……！！」

クククククク

クククク

クククク



「~~~~~」

「ゲ。。。下衆野郎。。。」

ネネネネネネ

ネネネネネネ

ギ

ギ

ギ



「さすがは伝説のセーラー戦士！」

「それなら敬意を評して・・・」

「すべてのピンクローターの
ブーストを作動させてやる！」

ポチ

ポチ

ポチ



「~~~~~」

「~~~~~」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ズズズズズズ

ズズズズズズ

ズズズズズズ

ズズズズズズ

グン

グン

グン

「みんなきたぞー！」

「きたぞっ！」

「ああああ。。。ダメツ！」

「ダメツ！」

「もうダメエエエエ。。。」

「またきたぞっっっ！」

「セーラー戦士の昇天タイムだああああっ！」

ビチャ
ビチャ
ビチャ

「いやあああああああああああああああああああ……」

カキ

カキ

ビーン

カキ

ビチャ

カキ

ビーン

カキ

カキ

ビチャ

カキ

カキ

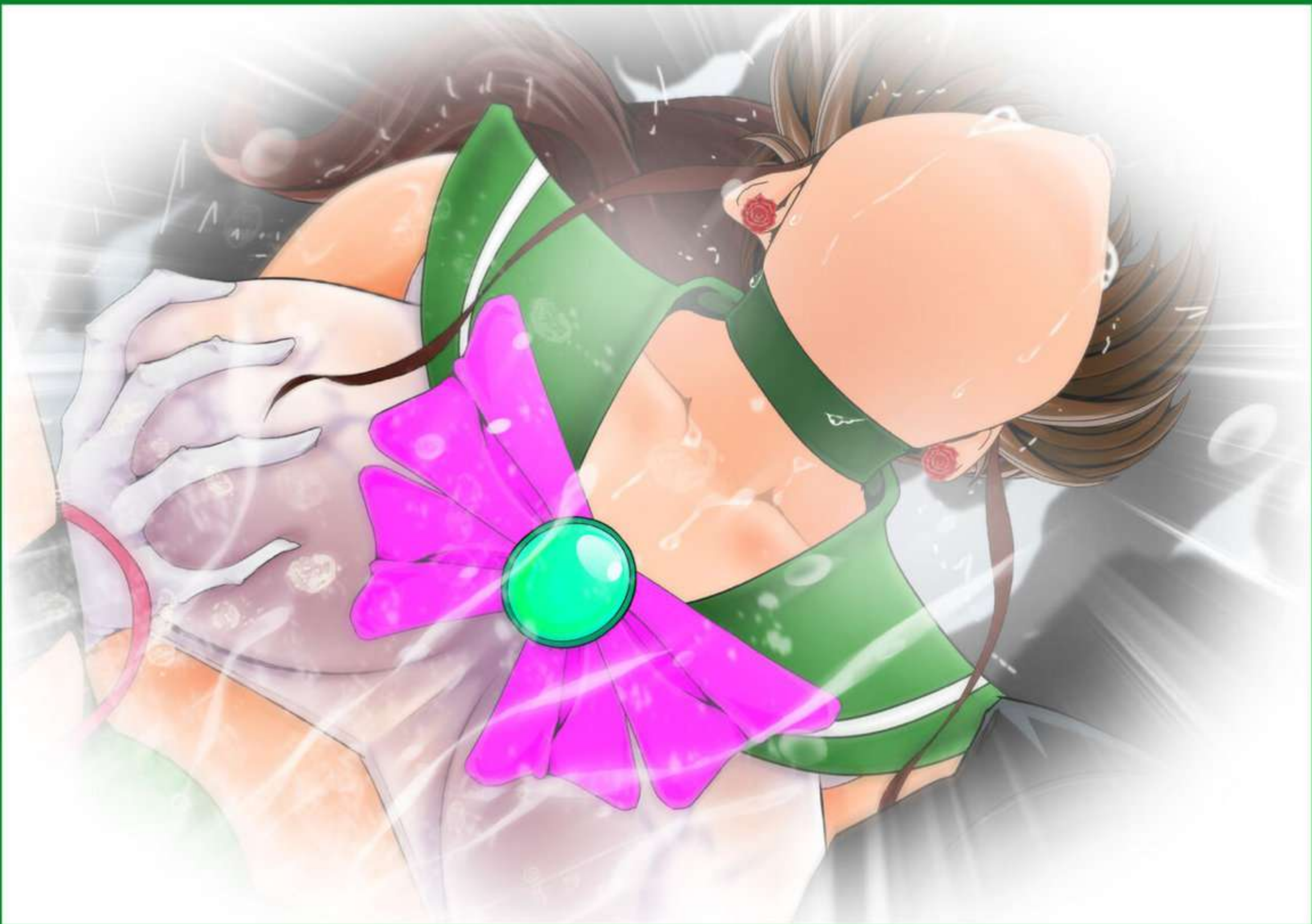
カキ

ビチャ

トニチアエアアツツ

「またイグウウウウウウウウウウウウウウウウウウ！」





「今回のコミケもよかったな！」

「特にコスプレ広場での

囲み撮影……！」

「セーラー戦士の娘……
最高だったよ！」

「あ……俺見てない……」

「それは残念だな！」

「あと写真見せてやるよ！」

シムホ

「ささげ……」

シムホ



多目的トイレ

シムホ

シムホ



「おお……そうだ……」

シムホ

「そうだまこと……」

ニムホ

ニムホ

ニムホ

ニムホ

「もっと舌を絡ませて……」



「ああ……ああ……」

ジューポ

ジューポ

ジューポ

ジューポ

ジューポ

「気持ちいい……」

「もっと激しく頼むよ……」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「ああ……そうだ……ふふふ……」

「ああ……ふふふ……あはは……」

ふふふ

ふふふ

ふふふ

ふふふ

ふふふ

ははは
ははは

ははは
ははは

ははは
ははは

ははは
ははは

ははは
ははは

ははは
ははは



『どうだった!?!』

初コミケの感想は!?!』

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「オタクどもに視姦された
感想は……!?!」

ハアハア
ハアハア

『まことが一番人気

あったんじゃないかな!?!』

ハアハア
ハアハア

『さあ続けて・・・』

『今日はこれから

オフ会があるんだけど・・・』

『まことがオタクどもにも
視姦されているのを見てたら・・・』

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア





『もう我慢できなくて……』

『さっきから勃起しっぱなしなんだ!』

「おは・おは♪」

ハアハア
ハアハア

「んっっ！」

ハアハア
ハアハア

ゴゴッ

「んっっ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ゴゴッ

ゴゴッ

「しっかり奉仕してくれよ！」



「どうだ、まごどー!?!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「んっっー!」

「んーっー!」

ミユホ

ミユホ

ミユホ

「んーっー!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「ピンピンに勃起してるだろ!」

「くやしそうな顔でチ○ポに

むしやぶらひくまこと……!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

グガッ

グガッ

グガッ

グガッ

「ああああ……たまんねえよ……!」

ハアハア
ハアハア

「ほらもつと深くだ！」

「んんっっ！」

ハアハア
ハアハア

グボウ
グボウ

ハアハア
ハアハア

「んーっ！」

ハアハア
ハアハア

グボウ

グボウ

「ほらもつと喉元深く啜えこむんだ！」



「こらするんだ！まじでー！」

ハアハア
ハアハア

「んっっー！」

シメテ

「んっっー！」

ハアハア
ハアハア

シメテ

ハアハア
ハアハア

「んっっー！」

シメテ

「んっっー！」

ハアハア
ハアハア



「おおおおおおおつっ！」

「ほらもつと深く啜えろ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「んんっ」

「ングツッ！」

「ングツッ！」

「もつともつと深く啜えこめっ！」

ゴボッ

ゴボッ

ゴボッ

ゴボッ



「もつと吸えッ！」

「しゃぶれっ！」

「しゃぶれっ！」

ハアハア
ハアハア

「んーっ！」

シブ

ハアハア
ハアハア

「んっっ！」

シブ

シブ

「んっっ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「僕のチ○ポをしゃぶりつくせっ！」

「セーラー戦士のイラマチオだあああつ！」

グボウ

グボウ

「ングツツ！」

「ングツツ！」

「んんっ」

グボウ

「ングツツ！」

グボウ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「うおおおおおおおつ！」

ハアハア
ハアハア

「気持ちいいっっっっ！」

「気持ちいいぞっっっっ！」

「んっっっ！」

ハアハア
ハアハア

「んっっっ！」

「んっっっ！」

「んっっっ！」

「んっっっ！」

「んっっっ！」

「んっっっ！」

ハアハア
ハアハア

「まごとのフェラチオ！」

ハアハア
ハアハア

「気持ちいいっっっっっっっっっっ！」

「もっと舌をチ○ポに絡ませてー！」

ハアハア
ハアハア

「んんっ」

グボウ

「ングツツ！」

ハアハア
ハアハア

グボウ

グボウ

「ングツツ！」

ハアハア
ハアハア

「ングツツ！」

グボウ

ハアハア
ハアハア

「もっとチ○ポに吸いついでっ！」

「うおおおおおっ!」

「もう我慢できなから!」

ムハ。

ムハ。

ムハ。

ムハ。

ムハ。

ムハ。

「射精すぞー!まこと!」

「このまま射精すぞー!」

ムハ。

「口の中に射精すぞおおおっ!」

「イクツッ！」

「イクツッ！」

「イクツツッ！」

ド
ン
ド
ン
ド
ン

ド
ン
ド
ン
ド
ン

ド
ン
ド
ン
ド
ン

「イクウウウウウウウウウウウウウウウウウツツ！」



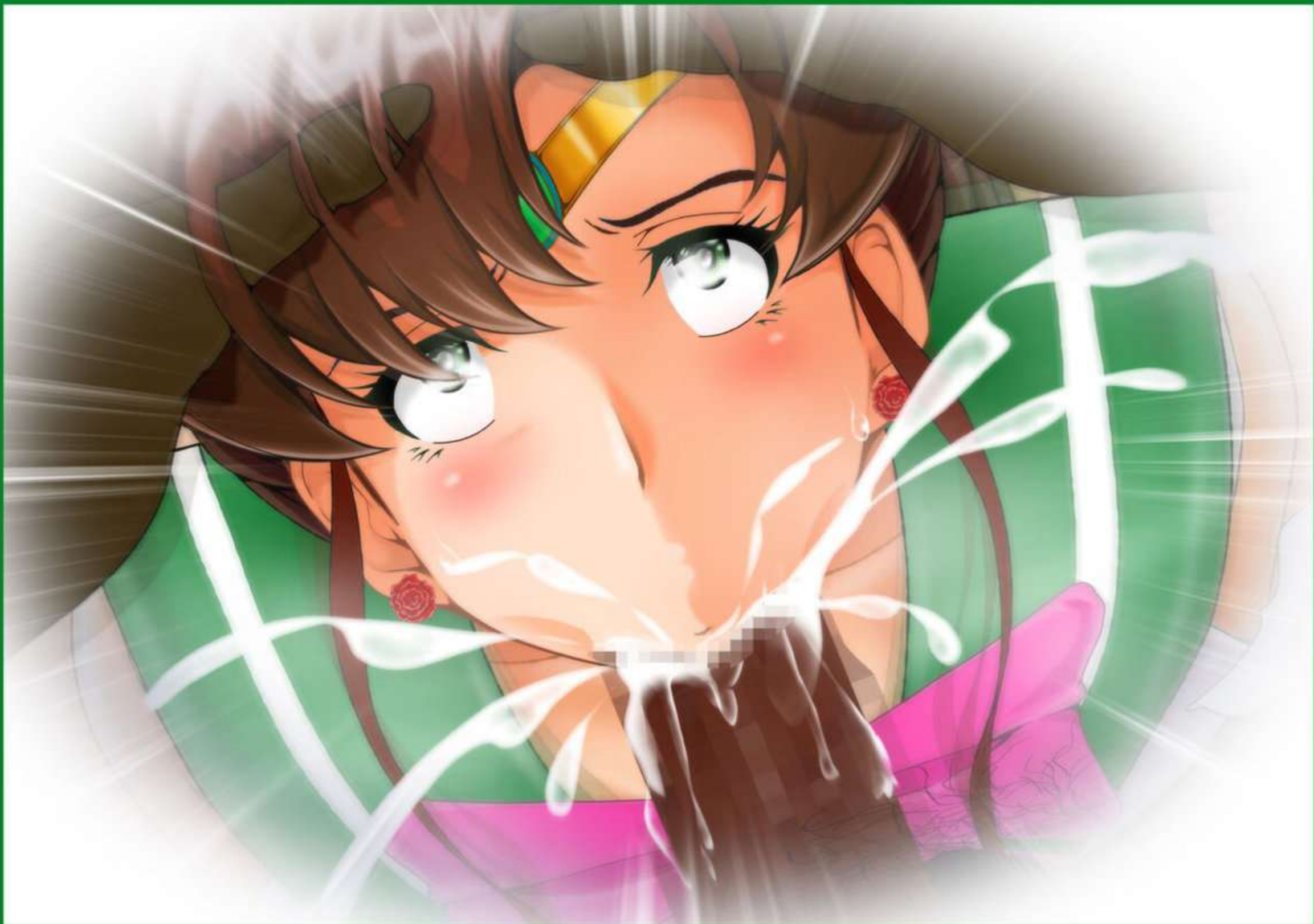


ド
ド
ド
ド
ド

ド
ド
ド
ド
ド

ド
ド
ド
ド
ド

ド
ド
ド
ド
ド



「ああ……いつちまった……」

ハイハイ
ハイハイ

ハイハイ
ハイハイ

ハイハイ
ハイハイ

ハイハイ
ハイハイ

ハイハイ
ハイハイ

ハイハイ
ハイハイ

ゴガッ

ポクッ

ゴガッ

ウツク

ゴガッ



「で射精た...で射精た...」

ハアハア
ハアハア

ゴポッ

ポクッ

ハアハア
ハアハア

どど

ハアハア
ハアハア

ゴポッ

どど

ゴポッ

ポクッ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「で射精たよ...」

ハアハア
ハアハア



「ああ……ごめんな……まごころ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「んんっー！」

ゴッポッ

ポクッ

どど

ハアハア
ハアハア

ゴッポッ

「んんっー！」

ポクッ

どど
ゴッポッ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「我慢できずに口に射精しちゃったよ！」

「まこと・・・わかってるよな！」

「んっっ！」

「んっっ！」

「僕の大事な子種汁だ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「そうだ……全部吸いとったか……!?」

ハアハア
ハアハア

「あ……あぁっ……」

どろっ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

どろっ

ハアハア
ハアハア

どろっ

「ああ……っ!」

どろっ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「残すなよ!」



ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「ゴクツッ！」

「……………」

どろろ

どろろ

どろろ

どろろ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「全部飲み込んだか!？」

「あ……ああっ……」

「あ……っ!」

「おおおいしい娘だ……まこと!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「ほらまだ僕のチ○ポに・・・」

ハアハア
ハアハア

「くっくっ・・・」

ハアハア
ハアハア

チビ

ハアハア
ハアハア

「うらうら・・・」

ハアハア
ハアハア

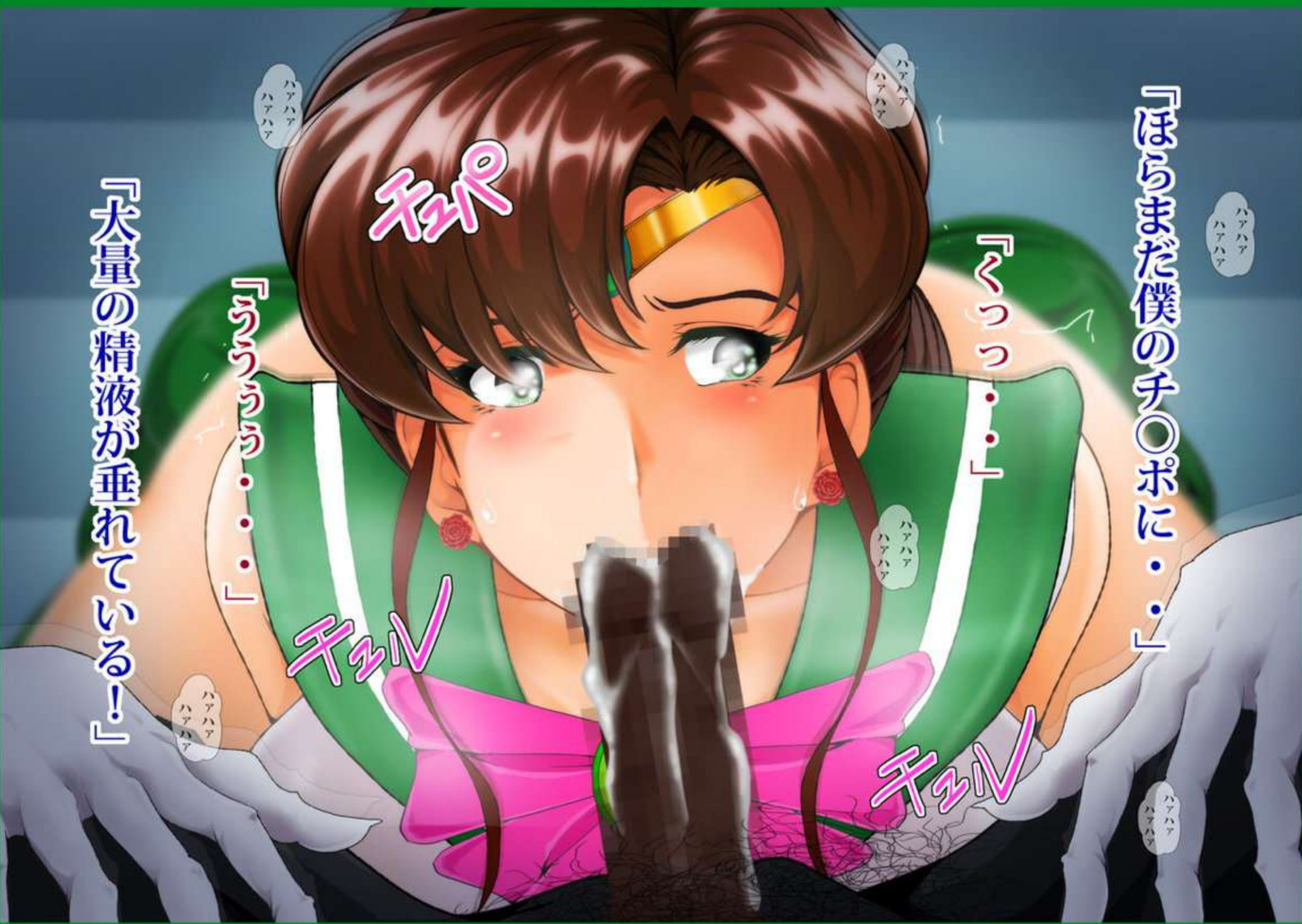
チビ

チビ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「大量の精液が垂れている！」



ハアハア
ハアハア

「そうだ！キレイに舐めとるんだぞ！」

「くっくっく……」

ハアハア
ハアハア

「わ……わかってるよ！」

ん
ん

ん
ん

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「一滴ものこすな！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



ハアハア
ハアハア

「ススキムヤ……」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「〜」

ハアハア
ハアハア

うわ

うわ

ハアハア
ハアハア

うわ

ハアハア
ハアハア

「裏スジのほうもキレイにな!」

ハアハア
ハアハア



ハアハア
ハアハア

「そうだと袋に垂れた精液も残すな！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「……」

ハアハア
ハアハア

うろ
うろ

うろ
うろ

うろ
うろ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「最後の一滴まで舐めとるんだぞ！」



『ああ……とっつても気持ちよかったよ!』

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

『これで気が済んだかい!』

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

『ん!?!何言ってるんだ!?!』

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

『コミケのお楽しみはこれからだろ……!』



「いったいどこまで
行く気だよ！」

「ここアキバだろ!?!」

「もうすぐだよ！」

「その先の雑居ビルだ！」





「なんだよここ!?!」

「本当にただの雑居ビルじゃないか!」

「レンタルスタジオさ!」

「さあそこの部屋に入って!」



「なんだここは!」

「趣味の悪いスタジオだな!」

「こんな場所で

何しようってんだよ!?!」

A character with long, wavy brown hair and large green eyes. She is wearing a white sailor-style top with a green collar and white laces. She is holding a golden ring with a triangular symbol on it. The background is dark with some light spots.

「世間にはいろんな趣味嗜好を
もつ人間がいるものさ!」

「特にこのアキバ界限にはね!」

「無駄話はそれくらいに。。

時間がもつたいない!」

「さあもう一度変身してくれないか!」

「くっー!」

「どうせ無理でも変身させるんだろ。。。」



「ジュピターパワー。。。」

「メイクアップ!」



「木星を守護に持つ
雷と保護の戦士・・・」

「セーラージュピター!!」

「しびれるくらいに後悔させるよ!!」

「これでいいかい!」

「意外に素直に変身したね!」

「ようやく僕には逆らえないことが
理解できたのかな!」



「弱みがなければ誰が
アンタの言いなりになんか!」

「……」

「いったいこんな場所で
何をするつもりなんだい!?!」



「何って……!?!」

「コミケの後は

オフ会にきまってるだろ!」

「オフ会……!?!」

「オフ会って何だよ!?!」





「うまだわかるよー!」

「くっくー!」

「さあこれを付けてもらおうか!」

「手を上げて頭の上で組むんだ!」

ガチャ

ガチャ

「ああああ・・・何をする!」



「くっ」

「何だいこれ!?!」

「おお。。。いいね!」

「囚われのセーラー戦士!」

「今日のオフ会の趣旨に
ピッタリだ!」



「さあオフ会を
始めようか！」

「おらっラー！」

「まこと……
これ好きだったよね！」



「そ……それは！」

「そら……電マさー！」

「過去君を幾度となく昇天させた……」

「強力な大人のオモチャだ！」





「バカにするんじゃないよ!」

「それで私を

いたぶろうってんだらうが・・・」

「そんなオモチャ一つに
私は屈しないよ!」

「オモチャ一つ!?!」

「勘違いしてもらっては
困るね・・・!」

「みんな準備ができたから
入ってきてっ!」

「はい!」

「入るよ!」

「!?!」

「なんだい……アンタ達!?!」

「おららの!?!」

「入るよ!」

「はい!」

「準備できた!?!」



「ふふふ・・・」

「ふふふ・・・」

「待ちくたびれたよ!」

「スゲーかわいこちゃん!」

「セーラー戦士!?!」

「ふふふ・・・」

「まさか本物だったりして!」

「だ・・・誰だい・・・こいつらは!?!」

「こいつら・・・とは・・・」

「僕の友達にむかって失礼だな！」

「彼らはヒロピン好きのSNSで

知り合った仲間たちだよ！」

「ヒロピンって・・・何だよ!?!」

「ヒロピンってのはな・・・」





「物語のヒロインが

絶体絶命の危機に犯される・・・」



「!?!」



「まさに今!」



「君が置かれている

状況のことをいうんだ!」



「まずは手始めに
電マ地獄の開始だっつー！」

「さあみんな遠慮なく
いたぶってやってくれー！」

「くっくー！」

「まっ・まてっつー！」

「おおっ・まじっー！」

「いつまで耐えられるかな!?!」

「君・・・まごちゃんていうんだ!」

「はじめまして!」

僕達、七誌乃君の知り合いで・・・」

「ヒロピン好きの集まりさー!」

「～ん～」

「～ん～ん～ん!」

「今日はセーラー戦士コスかな!?
今日のオフ会の衣装にぴったりだよ!」

「彼から聞いてくるよー!」

ネネネネネネネネ

「ヒロシユアヒトホシユルヒー!」

「ゼゼー!」

ネネネネネネネネ

「~~~~~」

ネネネネネネネネ

ネネネネネネネネ

「まこちゃんには凌辱されるのが
好きなマゾ娘なんだって!?!」

「今日は僕達が存分に
辱めてあてるからね!」

「おおおおお・・・
顔張るね〜！」

ネネネネネネネ

「これだけ押しつけてても
耐えられるんだ！」

「あ・・・あああ・・・」

ネネネネネネネ

ネネネネネネネ

「普通の娘ならもう

昇天してるかも・・・！」

ネネネネネネネ

「じゃあ僕は

まこちゃんのアソコを！」

ネネネネネネネ

「や・・・やめろー！」

「そ・・・そこはー！」

「セーラー戦士に全身電マ攻めだあああつー！」

「わんわんー！」

「おおおおつー！」

ネネネネネネ

「わんわんー！」

ネネネネネネ

「いいねっー！」

「ごりやたまらんー！」

ネネネネネネ

ネネネネネネ

「こういうシチュユ！」

やってみたかったんだよねっー！」



「バンバン」

「ゴゴゴゴゴゴゴゴ」

バン

「ゴゴゴ」

バンバンバンバン

バン

バンバンバンバン

「バンバン」

バン

「ゴゴゴ」

バン

バンバンバンバン

バン

バンバンバンバン

「ゴゴゴゴゴゴゴゴ」

バン

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「ほらー!まごごと」

「惨めに昇天させられるより!」

「さっさと降参したほうがいいんじゃないやないー!」

ネネネネネネネ

「この私をみくびるんじゃないよー!」

ネネネネネネネ

ネネネネネネネ

「誰がこんなやつらに
屈するもんか!」

「みんな聞いたか!?!」

「セーラー戦士は

こんな電マ攻撃には屈しないらしい!」

「ぐぐぐっっ」

「ぐっっ!」

「それなら徹底的に
辱めてやろうっ!」

ズズズズズズズズ

「もっと電マのパワーをあげて・・・」

ズズズズズズズズ

ズズズズズズズズ

「このセーラー戦士を
もてなしてやろうぜ!」

「やりたければやればいらいちゅー!」

ネネネネネネネ

「でもこのセーラージュピターは
こんな凌辱には屈しない!」

ネネネネネネネ

ネネネネネネネ

「下衆な奴らに許しを乞うほど」

私は落ちぶれちやいないよっー!」

「言うねえ・・・まことー!」

「さすが内部系惑星最強の戦士!」

「セーラージュピター!」

「くっっ」

「くっくっくっくっ!」

「僕達みたいなモブキャラには
屈しないというところか!」

ハヤ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「でもそうこなくつちやー！」

「弱いヒロインをいたぶるのは
僕らも趣味じゃない！」

「君のような屈強な戦士を
屈服させてこそ達成感が得られるんだ！」

クハ

クハ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「なあに時間はたっぷりある！」

「〜」

「〜」

「どろろと蹂躪してらるる〜」

シュー

「〜」



「なんだ……まこと！」

「あれだけ強がっておきながら……」

「あ・ああ……」

「ああ……」

「乳首つねっただけで
悲鳴あげてやがる！」

「まったく先が思いやられるね！」



ジーン
ジーン

ピン
ピン

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「そういえばまことは

乳首も弱点だったよな！」

「それならみんなにその弱点を

見てもらおうよ！」

「な・・・何言ってるんだよ!?!」

「何する気だよ!?!」

「みんな〜まことのオツパイ見たいよな!」

グイッ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「まごちゃんのおツパイ!?!」

「この巨乳を

拜めるの!?!」

「僕も見たい!」

「くっくっ!」

「おおおお...!」

「まごちゃんの生乳!?!」

「見たい!」

「僕もっつ!」

「ほらまご!」

「みんなお前のオツパイみたいってさ!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ズイッ

「や……やめるよ……」

「こんなやしろの前で……」

「それじゃ……」

「せーのっーっー」

「あああっ」

「さっーっー」

「さっーっー」

「いやあああああああっ！」

ピン

ピン

ピン

「どうだいみんな！
この巨乳！」

「今日はこのオツパイを
好きなだけ弄んでもいいんだよ！」

クシュ

「こんな風にね！」

クシュ

「わんわんー！」

「おおおおなんて敏感なんだ！」

ハアハア
ハアハア

「乳首を軽く摘まんだだけで！」

ゴクン

ハアハア
ハアハア

「このセーラー戦士は
乳首が弱点か!?!」

ゴクン

「あ……ああ……」

ハアハア
ハアハア

「このオツパイを好き放題
弄んでもいいって!?!」

ハアハア
ハアハア

「今日はツいてるぜ！」

ハアハア
ハアハア

ゴクン

ハアハア
ハアハア

「こんな娘がオフ会に
参加してくれるとは!」



「さあみんな調教再開だ！」

「く……」

「やめろ……」

「その電マで直接この生乳を
弄んでやってくれ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「ふんふんいじわる〜」

「ここからがヒロピンオフ会の
真骨頂だっっ!」

「そのわがままボディ!」

「豊満なオツパイ!」

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

「たっぷりいたぶってあげるよー!」



「おー。」

「お……おめるー！」

「おさるー！」

「……」

「……」

ズズズズズズ

ズズズズズズ

ズズズズズズ

ズズズズズズ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

「まいちゃんごーごー!」

「ここが気持ちいいんでしょー!」

「ああ・・・やめろっ!」

「ち・・・乳首は・・・」

「乳首が弱点だって!?!」

「集中的に攻めてあげる!」

「僕が気持ちよくしてあげるよー!」

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

グッ

グッ

グッ

ズズズズズズズズズズ

グッ

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

グッ



「やめるっつていわれると・・・
もっと虐めたくなるよね！」

「わぁーっ！」

「ほらほらーっ！」

「ほらほらーっ！」

「わぁーっ！」

「気持ちいっしょーっ！」

「ホントは

気持ちいいんでしょーっ！」

「ホントは

感じてるんでしょーっ！」

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

「ほらまいとー！」

「無理するなー！」

「こいつらは本気だー！」

「そろそろギブアップ
したほうがいいぞー！」

「こいつらの前で
醜態を晒す前になー！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

グワッ

グワッ

グワッ

ズ

ズ

ズ

グワッ



「何度も言わせるんじゃないよ！」

「私は雷と保護の戦士！」

「セーラージュピターだ！」

「アンタ達のちんけな凌辱には
絶対屈したりしたいよ！」

「だってさ……みんな……」

「くっくっ!」

「このセーラーージュピター様は
僕達のちんけな凌辱には負けないらしい!」

「それじゃ……徹底的に
やってやろう!」

「こいつが泣いて許しを乞うまで
蹂躪してやろう!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「さあみんな遠慮はいらない！」

「このセーラー戦士に

凌辱の限りをっ！」

グワッ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「おおおおおつっ」

「やってやる！」

グワッ

グワッ

ハアハア
ハアハア

「このセーラー戦士が果てるまで
凌辱しつくしてやる！」

グワッ

「足腰たたなくなるまで
辱めてやる！」

「オラッ!」

「オラッ!」

オラッ! オラッ! オラッ!

オラッ! オラッ! オラッ!

グッ

グッ

「〜!」

「〜!」

「オラッ!」

グッ

「オラアアアアッ!」

オラッ! オラッ! オラッ!

オラッ! オラッ! オラッ!

「オラッ!」

「〜!」



「ぐっ...」

ハアハア
ハアハア

「アソコもいたぶってやれ！」

ハアハア
ハアハア

「ぐっ...」

ハアハア
ハアハア

「ぐっ...」

ハアハア
ハアハア

「ぐっ...」

ハアハア
ハアハア

「性感帯余すところなくいたぶってやれええっ！」

ハアハア
ハアハア





「ハイハイ」

ハイハイ
ハイハイ

グッ

グッ

ハイハイ
ハイハイ

「ハイハイ」

ハイハイ
ハイハイ

「ハイハイ」

ハイハイ
ハイハイ

グッ

ハイハイ
ハイハイ

「ハイハイ」

グッ

グッ

グッ

ハイハイ
ハイハイ

グッ

グッ

グッ

グッ

「ハイハイ」



「あ……」

ハアハア
ハアハア

「あひっ……」

ピクン

「あひっ……」

ハアハア
ハアハア

ピクン

ハアハア
ハアハア

「あ……あ……」

ピクン

「なんだ……まじとー!」

ピクン

「はひっっ!」

ハアハア
ハアハア

ピチャ

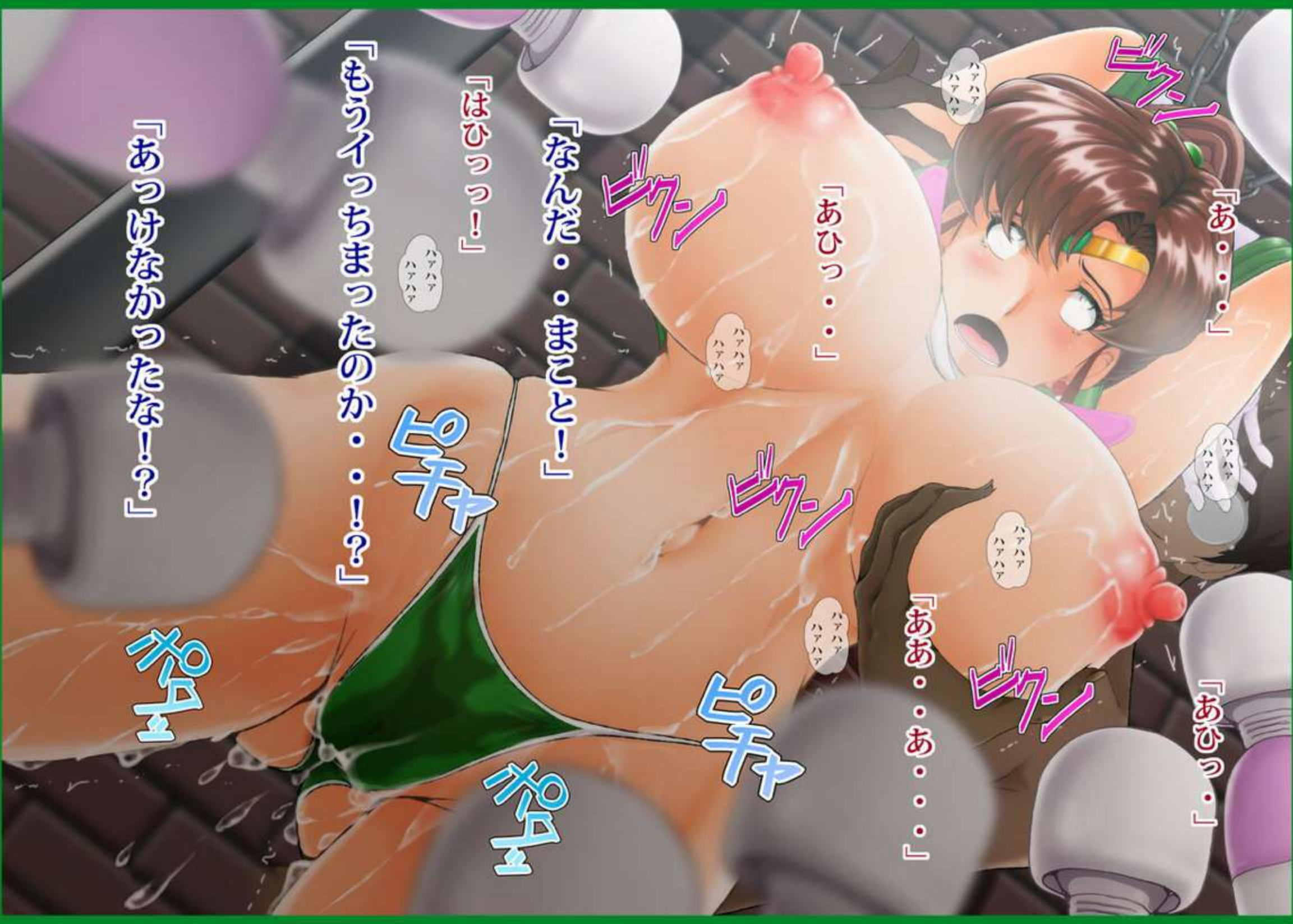
ピチャ

ピチャ

「もういつちまったのか……!?!」

「あっけなかつたな!?!」

ピチャ



「ああ……あ……」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ビクン

ビクン

「セーラー戦士が……
電マに屈服！」

「あ……」

ハアハア
ハアハア

「あひっ……」

ハアハア
ハアハア

「あひっ……」

ハアハア
ハアハア

「まごちゃん……」

「いつちやつたんだね!?!」

「こんなにお漏らしまでして……」

「はひっっ!」

「こんなにビショビショにー!」

ハアハア
ハアハア

「電マ気持ちよかったの!?!」

ピチャ

ピチャ

ピチャ

ピチャ

「哀れだな・・・まごどー!」

「くぅ・・・」

「セーラー戦士がこんなオモチヤに
三分ともたずに・・・」

「お漏らしまでして

昇天してしまうとはね・・・」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ビクーン

ビクーン

ビクーン

ビクーン

「ああ……」

「ぐふふ……」

「ああ……まこちゃん……
こんなにお漏らししちゃって……」

「僕達の調教が
気持ちよかったんだね！」

「セーラー戦士のパンツが
オツユでびちゃびちゃだ！」

「ああ……」

「な……何を……!?」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「わぁぁんー!」

「んんんんん…」

「ああ……」

「まこちゃんのお漏らし……」

「まこちゃんのお漏らし……!」

ハアハア
ハアハア

「まこちゃんのおツユ!」

「舐めていいかな!?!」

ポチャ

「びちよびちよのパンツ

しゃぶつてもいいかな!?!」

ポチャ

ポチャ

ポチャ

「ああ……何をやる！」

「や……やめろ……」

「やめてくれっ！」

「お兄さんが

しゃぶりつくして……」

「まごちゃんのアソコ

キレイにしてあげるよー！」

ズン

「あ……ああ……あああああ……」

ズン

「ほんとだな・・・」

ハアハア
ハアハア

「ひっっ！」

「ホントはクンニされて
感じてるんだろ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「ひっひっひっっー！」

ハアハア
ハアハア

「アソコ舐められて
感じてるんだろ！」

ハアハア
ハアハア

「その証拠に乳首がこんなに
ピンピンに勃ってるじゃないか！」

ドン

ドン



「~~~~~」

「~~~~~」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

「~~~~~」

「~~~~~」

「ああ……ああ……」

「僕達もいいかな！」

「あ……ああ……う……」

「僕にも舐めさせてー！」

「俺にもっ……」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ゴメン

ゴメン

ゴメン

ゴメン

ゴメン

「僕は……左の乳首を……」

「ひゅっ……」

「何をする!」

「それじゃ俺は右のオツパイだ!」

ズ

ズ

ム

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「おおおお・・・！」

大人気だなまこと！」

「ああうう・・・」

「あああああう・・・」

「存分に舐めてもらえ！」

「身体中舐めまわしてもらえうう！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ぽろ

ぽろ

ぽろ

「今度はワキを

なめちやおうかな!」

「よ・・・よせっ」

「あああああうっ・・・」

「どこ舐めるんだ!」

「まこちゃんのワキ!」

「いい香りがするっっ!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ズ
ズ

ズ
ズ

ズ
ズ

ゴ
ゴ

ゴ
ゴ

ズ
ズ

ズ
ズ

ハアハア
ハアハア

「ああああああ……」

ハアハア
ハアハア

「じゃあ俺は右の乳首を
なめまわしてやるっっ！」

ハアハア
ハアハア

「や……やめろっっ！」

ハアハア
ハアハア

「おおおおっ」

ハアハア
ハアハア

「まごちゃん乳首！」

うめええええつ……！」

グッ
グッ

グッ
グッ

グッ
グッ

グッ
グッ



ハアハア
ハアハア

「わんわんー!」

「わんわんわんわんー!」

「俺はその可愛いへそを!」

「舐めさせてもらおうかな!」

わんわん

わんわん

わんわん

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

グ
グ
グ

グ
グ
グ

わんわん

わんわん



「おっおっおっ」

ハアハア
ハアハア

うわ
うわ

ハアハア
ハアハア

うわ
うわ

ウー
ウー

「おっおっおっおっ」

ハアハア
ハアハア

「おっおっおっおっおっおっおっおっ」

うわ
うわ

ウー
ウー

ウー
ウー

ハアハア
ハアハア

うわ
うわ

ウー
ウー



「あ……ああ……」

「あ……」

「たのむ……!」

「……やめてくれ……」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

「あああああ……」

「まごちゃんー!」

「まいちゃんー!」

ろろ

ろろ

ろろ

ゴッ

ゴッ

「俺はこつちから舐めてやる!」

「セーラー戦士の顔を舐めてやる!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

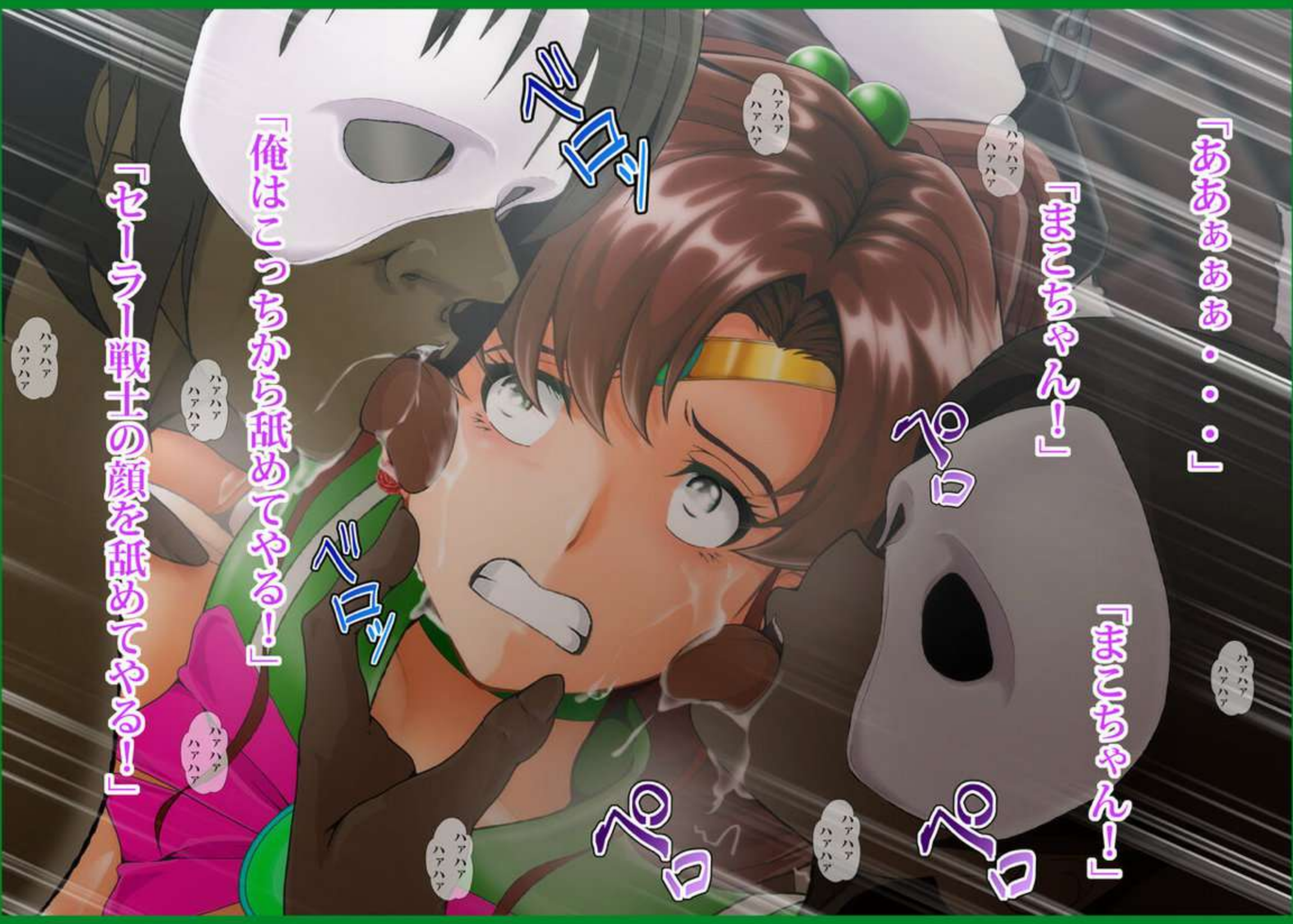
ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「気持ち悪いとは心外だねええっ!」

「君のような美少女が

そんな言葉使いよくないよ!」

「んっ!」

イクメン

「!?!」

「んっっ」

「おしおきだ!」

「んっっ!」

「そんな悪い口は塞いでしまおう!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「まこちゃん和唾液交換だっつー!」

「いっぱい飲んで!」

「んーっ」

「僕の唾液をいっぱい飲んで!」

「んんっ!」

「んーっ」

ズン

ズグツ

ズグツ

「まこちゃんの唾液も

吸い取ってあげる!」

「んーっ!」

「んーっ」

「吸い尽くしてあげるよっつー!」

「ぶはあああつ！」

「ああああああ美味いっ！」

「まごちゃんの唾液美味いぞおつ！」

「あああああつ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「いやあああああ。。。。」

「いいねええつ！」

「それじゃ今度は。。。。」



「まごちやんの唾液・・・」

「美味かった・・・！」

ズズ

「んーっ」

「んーっ！」

「んんっ！」

ズズ

「俺の番だ！」

「俺と唾液交換しようぜ・・・」

「セーラー戦士ちゃん！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「んぐっ!」
「んぐっ!」
「んぐっ!」

「んぐっ!」
「んぐっ!」
「んぐっ!」

「んぐっ!」
「んぐっ!」
「んぐっ!」

「んぐっ!」
「んぐっ!」
「んぐっ!」

「んぐっ!」
「んぐっ!」
「んぐっ!」

「んぐっ!」
「んぐっ!」
「んぐっ!」

「んぐっ!」
「んぐっ!」
「んぐっ!」

「んぐっ!」
「んぐっ!」
「んぐっ!」

「んぐっ!」
「んぐっ!」
「んぐっ!」

「んぐっ!」
「んぐっ!」
「んぐっ!」

ハアハア
ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア
ハアハア

『あああああああああああ……』

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

『もういやあああああああ……!』

「なんだ降参するのか!?!」

「ひいひいひい……」

「もう……勘弁してくれ!」

「でもあれだけ強がったんだ!」

「こんなもんで終わると思ったら
大間違いだぞ……」

「ほらやってやれっ!」



「んんんん」

「んんんんんんんん」

「ああああああああ」

「いやああああ」

「何をするっつ！」

「んんんん」

ズン

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「や・・・やめるー!」

「汚い手で・・・」

「さわるんじゃない!」

「でも奥の方は・・・」

「おおグチヨグチヨだ!」

「愛液が溢れ出て!」

「指がワレメに吸い込まれていく!」

プル

プル

プル

ぬちゅ

プル

ぬちゅ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「うっうっ！」

「見るこの愛液！」

「くっ！」

プル

「天然のラブジュースだ！」

プル

ヌル

しるしる

「セーラー戦士のマ○汁だっ！」

「おおおお……」

プル

ヌル

「おお……すげええ！」

「どうだい……」

「まことに一度だけ
チャンスをやろう！」

「……………」

「!?!?」

「これからみんなでお前を
愛撫しまくる……………」

「それに耐えきつたら
今回は許してやろう！」

「さあみんな始めてくれっっ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

プル

プル

プル

プル

「みんな手を休めるな！」

「はっはっは」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ペロ

ペロ

ペロ

「はっはっは」

ペロ

ペロ

ペロ

ペロ

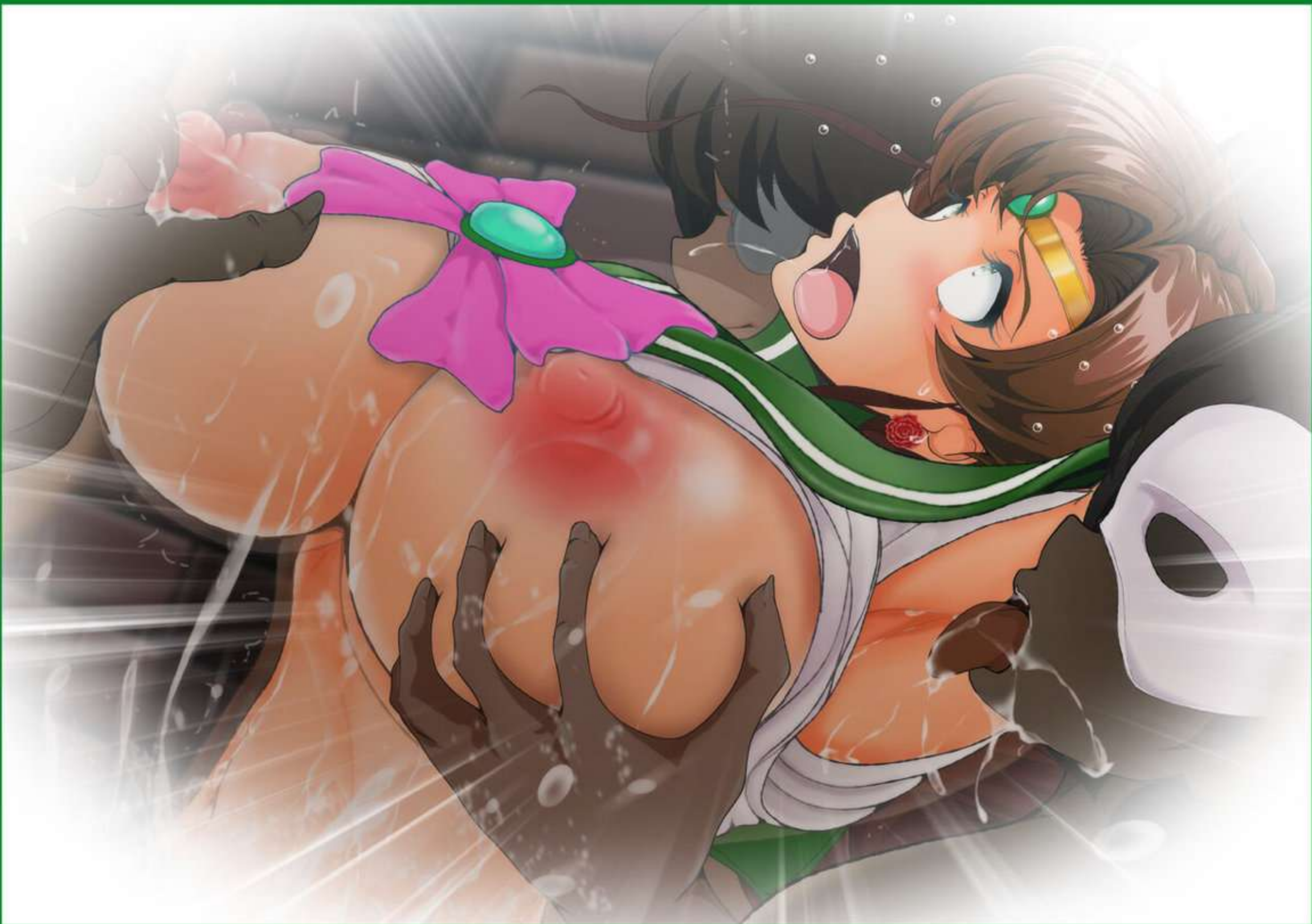
ペロ

「はっはっは」

ペロ

ペロ

「全員総出でまことの身体を舐め回せええっ！」



「いつちまったか・・・」

「あひっ・・・」

「あ・・・あ・・・」

「あひ・・・」

「哀れだな・・・まごどー!」

「あひ・・・」

「はひっ・・・」

「あひっ・・・」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ズ
ズ

ズ
ズ

ズ
ズ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ズ
ズ

ハアハア
ハアハア

「おおおお・・・」

「あのまごちゃんが・・・」

「僕等に身体舐めまくられて・・・」

「潮噴きまくって昇天!」

「自冒むいて失神・・・」

「また昇天しちゃったよ!」

「おい・・・まじかー!」

「いらしまでのびてやがる!」

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「残念だったな・・・まこと！」

「勝負は君の負けだ！」

「〜っ・・・」

「あんな大勢で・・・」

「卑怯だよっっ！」

「この下衆野郎が！」

「もう気がすんだかい！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「何いってんの・・・まじでー!」

「お楽しみはこれからだろ!」

「わかるだろ君のお尻にあっている・・・
僕のピンピンに勃起した男性器が・・・」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「君がみんなに辱められる姿を
見ているともうこんなになんて……」

「さつきから
勃起しっぱなしなんだ！」

ズン

「!?」

「お……おい……まさか……」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「そうっ…。そのままさかだ！」

「〜っすー！」

「今からみんなの前で。。。」

「お前を犯してやるー！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「セーラー戦士の……」

「後悔レのプだ！」

「う……お……」

ズ
ズ

ズ

ズ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「さあ挿入^れれるぞ！」

ズン

アッ

アッ

アッ

「や……やめろよ……」

「こんな大勢の前で！」



「お……おお……」

「先っぽが挿入^はいった……！」

ネイ

ネイ

ネイ

「これから犯されるのか!?!」

「おおおお……」

セーラージュピターのピンチ!

「こんなシチュ薄い本でしか
みたことないよ!」

「うう……見るな……」

「みんなお前が犯されるのを
期待しているぞ!」

「そらっらっらっ!」

「一気に子宮まで

捻じ込んでやる!」

「おらあああああああ!」

「さあ!」

「さあ!」

グ
ッ

「さあ!」





ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~~」

「挿入^はいたぞ。まごどー!」

TV

TV

TV

「いくぞまこっどー！」

「セツクス開始だっつ！」

ズ
ツ

「あああああ……っ！」

ズ
ツ

「ーっお……おめろっ！」



「おおおおおおおおおつっ!」

ズツ

「あぁっっっ・あぁっ!」

ズツ

「キツイオマ○コなのに

愛液グチヨグチヨで・・・!」

「ヌプヌプ挿入^はいるぜっ!」

「あぁあぁあぁっっっっっ!」

ハアハア
ハアハア

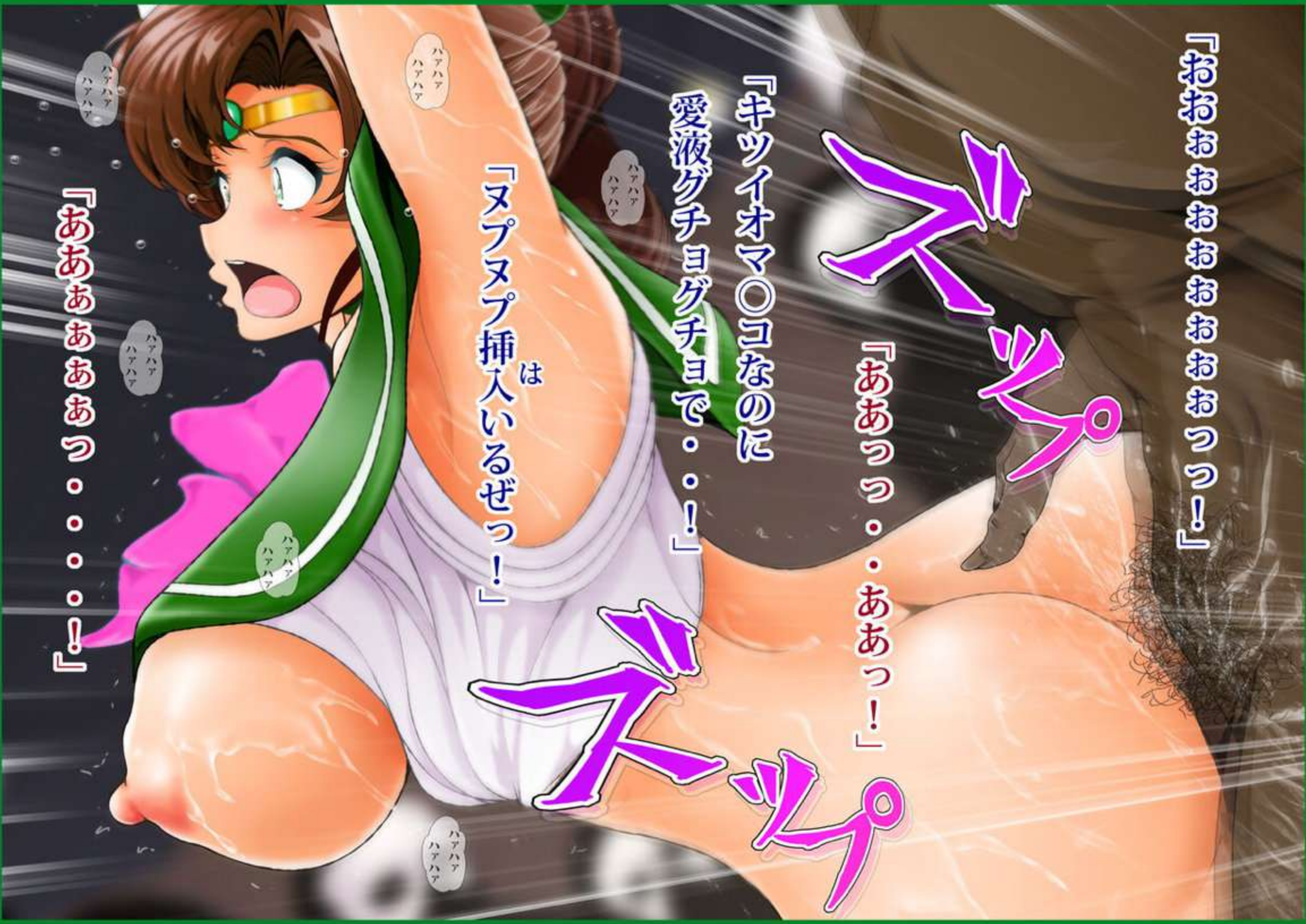
ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「たまらねえシチュユだ！」

「セーラー戦士が
なすすべもなく！」

ズッ

「手足の自由を奪われた
セーラージュピターが・・・」

ズッ

「無抵抗に犯されている！」



「まことのオマ○コは
相変わらず最高だな！」

「ほら脚をあげる！」

「あ……ああ……っ」

「な……何をする！」

グズツ

ハアハア
ハアハア

ピン

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ピン

ピン

「おおおおおスゲエエエツ！」

「まこちゃんのおマ○コに

七誌乃君のチ○ポが根元まで……！」

「や……やめる!!」

「み……見るな！」

「ズブズブ挿入^はいってる！」

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

「ひっ！」

「出し入れされてるところ

見てもらえつつ！」

「おそろー！」

「オラッ！」

「ひらっっ！」

「セーラー戦士の犯されてる

オマ○コ見てもらえつつ！」

「オラッ！」

「おそろー！」

「オラッッッ！」

ピ

ピ

ピ

おそろー
おそろー
おそろー



「み……見るなって……」

「おおおよく見える!」

「見るな!」

「突き入れられるたびに

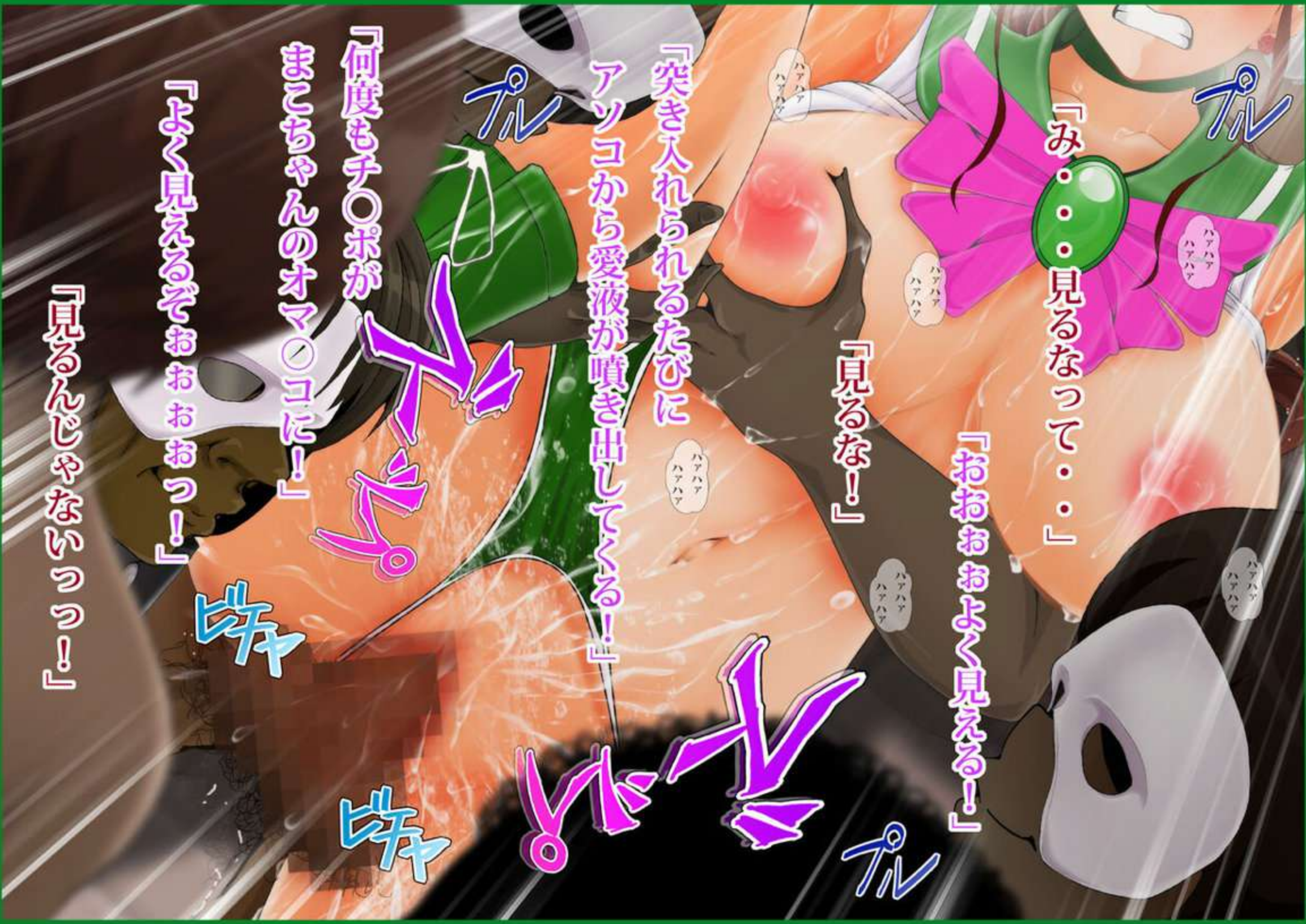
アソコから愛液が噴き出してくる!」

「何度もチ○ポが

まこちゃんのオマ○コに!」

「よく見えるぞおおおつ!」

「見るんじゃないっつ!」



ピン

「よかったな、まごどー!」

「セーラー戦士の公開レオプ!」

「ぐぐぐ〜!」

「〜るるるるる〜」

「ぐぐぐ〜...」

「みんなご満悦のようだ!」

「それじゃもっと期待に

応えてやらないとな!」

ピン

ピン

ピン

ピン

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「もつと激しく犯してやるっっ！」

「オラッ！」

「あっっっ！」

「ああっっっ。」

「もつと惨めに犯してやるっっ！」

「オラッ！」

「オラッ！」

「オラッッ！」

「あああああ……」

「オラアアアアアアアアアアアッ……」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ピン

ピン

ピン

ズン
ズン
ズン

ビャ

ビャ

ズン
ズン
ズン

「ひっ！」

「泣いて懇願するヒロインを
無慈悲にも犯し続けるっっ！」

ズ
ズ

「わんわんー！」

「これぞヒロピンの醍醐味！」

「あああああ……」

「ミンゴるぞー！」

もうたまらん！」

「ぼ……僕も……」

「お……俺もだ！」

ズ
ズ

ズ
ズ

ズ
ズ

ズ



「おおおおおおおおおつ……」

ハアハア
ハアハア

シコ

「僕さつきから

勃起しっぱなしだったんだ！」

シコ

シコ

シコ

「俺も……」

ハアハア
ハアハア

シコ

「僕もだよ！」

ハアハア
ハアハア

「僕なんかガマン汁で

パンツ濡らしちゃたよ！」

シコ

「おおおつ……！」

ハアハア
ハアハア

シコ

シコ

「まこちゃんをオカズに

シコりまくるぞおおおつ！」

「よかったな！」

「まことー！」

「ひゅっっっ……」

「みんながお前をずりネタに
セズリこいにくれてるぞ！」

「ひゅっっっっっ！」

「見たこともない数のチ○ポが
まことに向けられている！」

「たっくさんの精液を
いただけそうだな！」

「ありっただけの精液
射精^だしてもらえっっ！」

シコ

シコ

シコ

シコ

シコ

シコ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「ああ・・・僕もそろそろ・・・」

「イキそうだ・・・!」

「!?!」

「射^だ精すぞ・・・まじでー!」

「このまま射^だ精すぞ!」

「いいな射^だ精すぞっ!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「みんな見てる前で
腔内射精だつ！」

「や……やめろっつ！」

「それだけは……」

「腔内で射精したらし
ょうちしないよー！」

「負け犬のお前が…
言える立場か！」

「だ…射精すな！」

「うおおおおおおおっ！」

「だめだ…！」

「射精すぞっ！」

「射精すぞっ！」

「射精すぞっ！」

「なか腔内はやめろっ！」

「射精すぞおおおおおっ！」

ズツ

ズツ

ハアハア
ハアハア

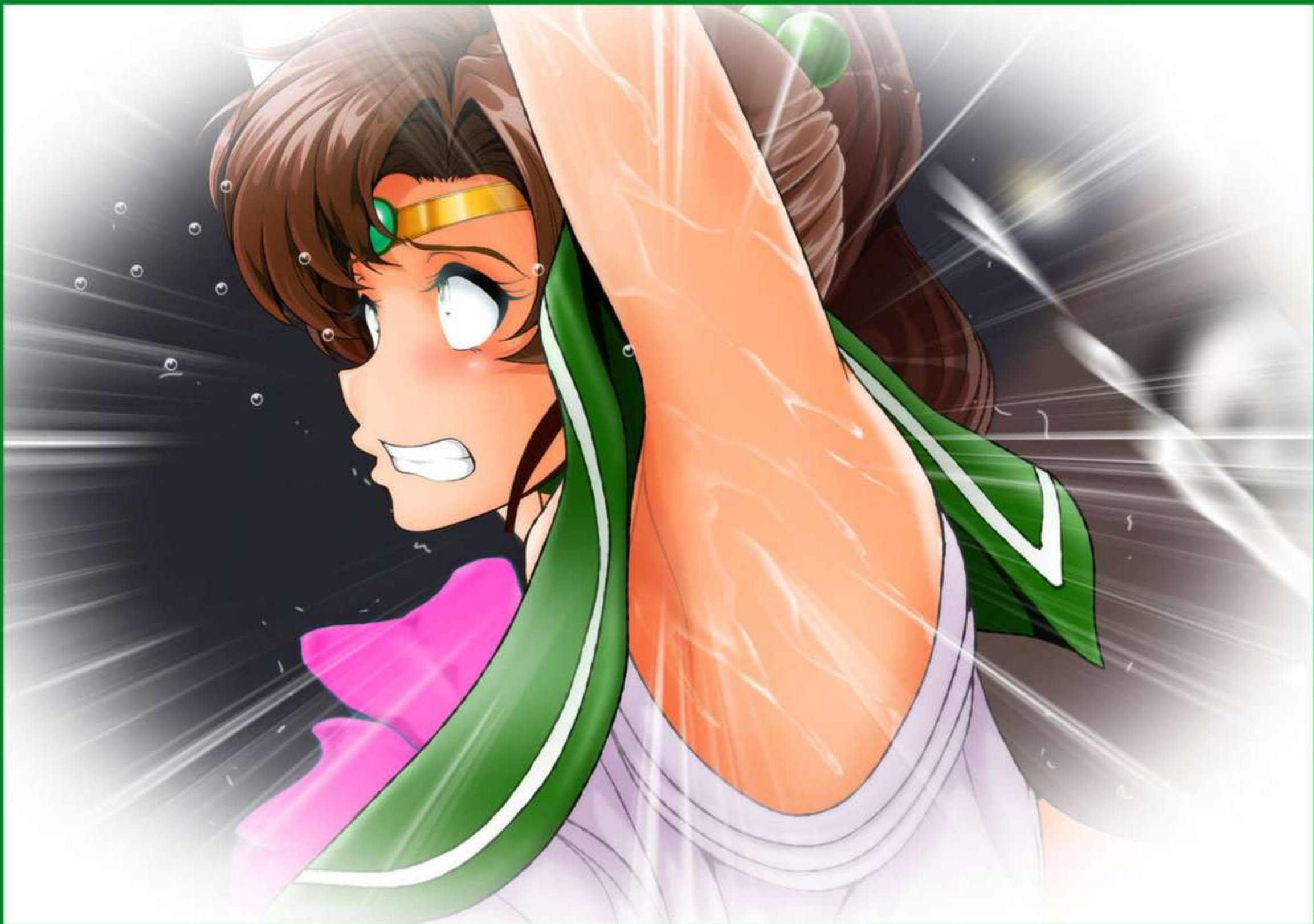
ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア





「おおおおおおお……」

「ぼ……僕ももう限界つつつ！」

「イクツッ！」

「イクツッ！」

「イクツッ！」

「まごちゃんだの身体に射精だしていい!?!」

「イクツッ!」

「ああああああ……」

「イクウウウウウウウウウウツツ！」

「お……俺もイキそうだ……」

イクツッ

イクツッ

「お・・・俺もイクツツ！」

「僕も！」

「俺は顔に射精だすぞー！」

ドッポ
ンツツ

ドッポ
ンツツ

「僕もイクツツ！」

「俺も・・・！」

「僕はオツパイに！」

「僕はワキに射精だすぞおおっ！」

「うおおおおおおおおおおおおおおっ！」



「セーラー戦士にぶっかけろおおおおお・・・」

「おおっっ・・・」

ドッポ
ドッポ

「ちやっっ・・・」

「ちやっっ・・・」

「おおっっ・・・」

「おおおおっっっ！」

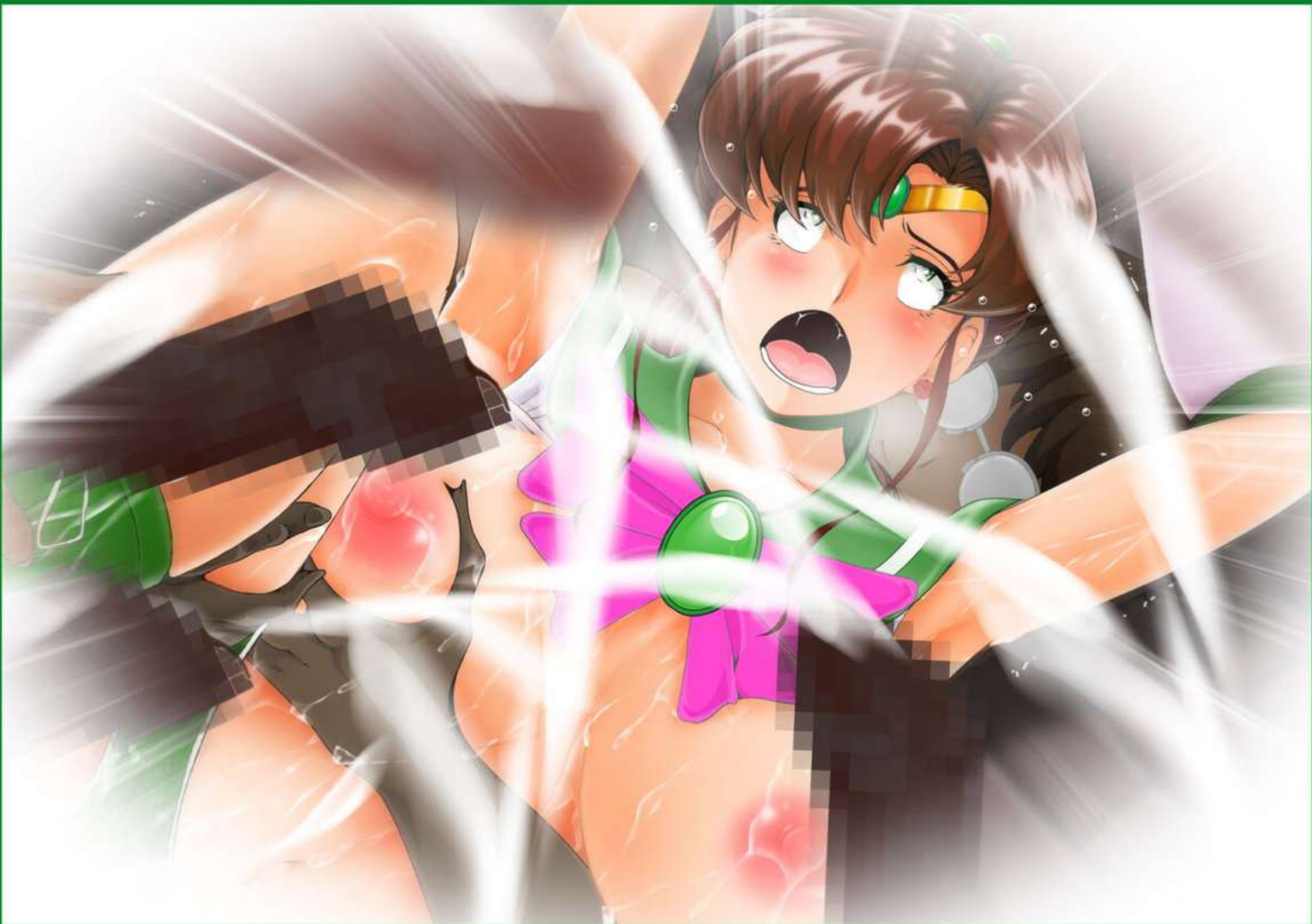
「おおおおお・・・」

「いやあああああああああっ・・・」

「おおっっ・・・」

ドッポ
ドッポ

「おおおおおおおおおおおおおお・・・」



「ああ……射精た……！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ゴクン

ゴクン

ゴクン

ゴクン

ゴクン

ゴクン

ゴクン

「まごとの腔内なかに

たっぷり射精だしてやったぜ！」

「さ……さやうら……こんなの……」

「んんんんー」

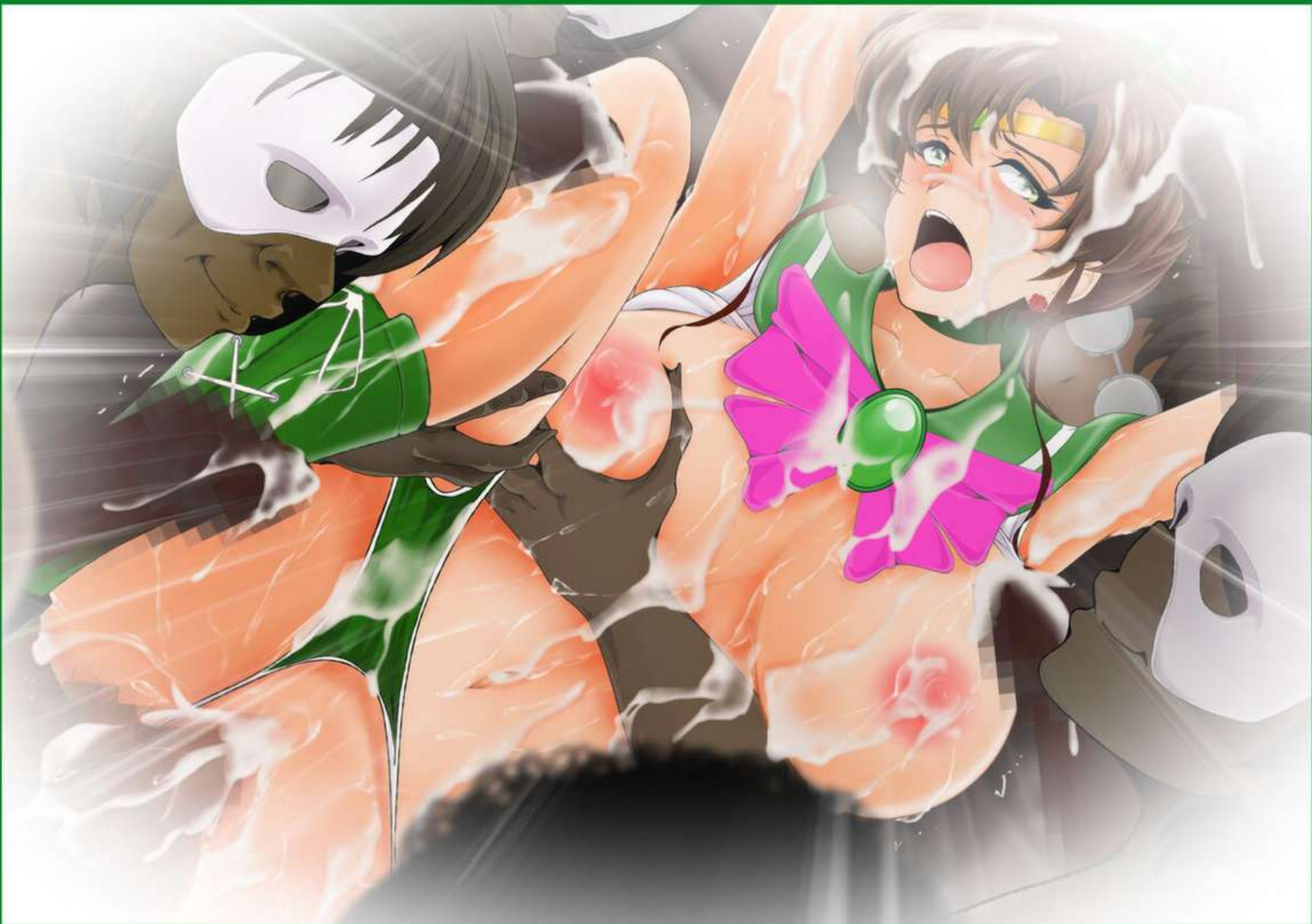
「まごちゃんの身体
精液まみれだ！」

「いやっついやあああああああつ……」

「んんんんー」

「これぞヒロピン最高の
バツドエンドー」

「んんんんん……」



「あ……ああ……」

「あ……」

「やっと終わった……!?!?」

「終わり……!?!?」

「勘違いするなよ!
まごどー!」

え

え

え

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「これで終わりじゃないぞー！」

「見てみる！」

みんなのチ○ポ！」

「まだビンビンだ！」

「なあに時間はたつぷりある！」

「みんなに可愛がってもらいな！」

ボン

ボン

ボン

ボン

ボン

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「ああ……」

「今度は僕達が
可愛がつてあげるよ！」

「や……やめろ……」

「ほら僕のチ○ポ
まだこんなに元気！」

「これ以上……」

「僕がまこちゃんを
気持ちよくしてあげる！」

「俺がつ！」

「それじゃ……僕から！」

「いや俺が先だ！」

「僕も……！」

「ほらまごちゃん!」

「もっと強くシゴいて!」

「あああああイクツツ!」

「イクツツ!」

「あああああ……」

「イクウウウウウツツ!」

「ほら啜えて!」

「今度は僕のを!」

「いやあああああつつつ……」

「しゃぶって……」
「気持ちいいよ!」

「まごちゃんのフェラ!」

「あああああ……」



「あああああ……」

これがセーラー戦士のマ○コ!

「セーラージュピターとの
セックスツツ!」

「おい早くかわれ!」

「気持ちいいいっ!」

「次は俺だ!」

「穴が足りねえっつ!」

「いや僕にもやらせて!」

「俺は後ろの穴をいただくぜ!」

「セーラー戦士のケツマ○コだ!」

「セーラージュピターを
サンドイッチファ○クだっ!」

「うおおおおおおおおおおおつ!」

終わることのないオラパコが。。。。

いま始まる。。。。





END